【研究ノート】

複製された手書き原稿で日本近代文学を愉しもう(1)

(Why Not Relish Modern Japanese Literature through Facsimile Editions of Manuscripts? —1)

藤　井　　哲*

発端：初版本に複製で親しむ

英文学を生業にしてきた筆者は，悠々自適の身分になって，せっかく日本人に生まれたのだから日本文学という文化遺産に親しんでおこうと思い立った．しかし眼をフジツボのようにすぼめて文庫本にページを繰ったり，猫背になってディスプレイを覗き込むような仕儀には及びたくない．風趣豊かな装幀の手触りを確かめながらの読書を満喫したいものである．そこで，年金生活者の身の丈に合った贅沢を探ってみた．つまり，複製された初版本を思い付いたのである．古書市場には精巧なレプリカがダブつき気味のようで，ほとんどが新刊文庫本並みの売価なのである．試しに一連の複製本を蒐め始めたところ半年も経たないうちに完集できてしまったことから，〝時は今〟と感じて，本誌にチェックリスト「複製された初版本で日本近代文学を愉しもう」を 3 回に分けて投稿した.[1] その後〝福岡大学機関リポジトリ〟から延べ 5,000 回のダウンロードが

* 福岡大学名誉教授

[1] 第 49 巻 4 号 2018 年 3 月 pp. 1147-1210，同第 50 巻 1 号 同年 6 月 pp. 133-204，同第 2

あり，こうした読書法に共感が示されたとの想いを強くしたのである．

「まがい物を有り難がるなんて！」と顰蹙されるかもしれない．しかし，このような開き直った着想こそが時宜に適った〝コロンブスの卵〟に化けないとも限るまいと，人間性が軽薄な筆者には思えるのである．オリジナルの初版本にしても所詮は印刷された複製品(copies)ではないか．なるほど作者自身の手沢本ならば放つオーラも格別であろうし，著名人宛の献呈本ならば希少価値も生じようが，そうなればなったで今度は破損が心配になって読めなくなる．いっぽう，念入りな原本調査と最新の複製技術が注がれた初版本を安価で所有できるのならば，指を舐め々々ページをめくる読書だって勝手次第と，(指を舐めない）筆者は高規格の複製品にメリットを見出しているし，機会ある毎に吹聴にも及びたいのである．

筆者が注目した複製本とは，日本近代文学館(1963 年設立)と図書月販(改称ほるぷ→ほるぷ出版→ 1999 年倒産)が提携して，あるいは双方で独自に企画して，1968 ～ 92 年に実現させた 20 余種のコレクションであり，(重複を除いても）およそ 185 名の文筆家による約 480 作品の初版本が極めて精巧に複製されていた．学校や図書館への納入を想定して造本も堅牢で，セット単位の販売価格は工芸品並みであったが，当時の好景気と〝一億総中流〟意識のおかげで一般家庭も（多くはインテリアとして）椀飯振る舞い式に購入したようである．しかし，それから半世紀が過ぎてみると，景気は後退し，居住空間は狭小になり，中流家庭も旧漢字や旧仮名遣いを敬遠する世代に代替わりされ，こうした組物はお荷物になってきたようで，一揃いであるいは単品にバラされた複製初版本がリーズナブルな売価で古書市場を満たすようになった．[2] あの頃は一介の学生

号 同年 9 月 pp. 605-685.

[2] 当時は桁違いに高額であったが累計で 1,300 万冊売れたとも推定され，現在の古書価格は概ね安価である．筆者は庭で『吾輩ハ猫デアル』にペーパーナイフを入れながらそれを読了したものであるが，3 巻セットを購入したときは 2,000 円と，〝本物〟の初版本の相場価格の 1,000 分の一であった．

で今はしがない年金生活者たる筆者に好機到来を感じさせた所以である．もちろんこのコレクションを以て日本の近代文学に投網を掛け得るとは楽観していないが，コレクションの初め4種(1968～69)で126作品が複製される際に，その分野の識者たちが2,000点以上の候補作品を検討して絞り込んだ由であるから，日本文学の初心者である筆者としては，四半世紀の複製化事業の成果である480点を願ったりの作品揃えと受け留めている．

さて，複製された初版本に筆者が着目した前後の頃を思い起こしてみると，読書に期待したい究極の境地として，作家の気配を感じながら作品世界に游ぶ贅沢があっても良かろうと夢想した．すなわち，手書き文字の筆遣いから，原稿に残る煙草の臭いから，何かのしみや汚れからも，執筆しながらの息遣いが伝わって来るのではないかという期待である．そして最近になって川島幸希の『直筆の漱石』（新潮選書，2019）で次の述懐(pp. 151-152)に接したのである．

> …作家は文章を書き，小説・詩歌・随筆などの作品として読者に読んでもらうことを職業にしているのだから，それに直結する完成原稿は別格の存在となる．筆者もまた，ブックコレクターとして成熟するにつれ，好きな漱石や芥川，鏡花や太宰といった作家の完成原稿を持ちたいと考えるようになった．［中略］…現存が確認されている完成原稿の多くは，既に図書館・文学館・記念館・出版社などに収蔵され，売買の対象となることは少ない．だからたとえ大富豪であっても，すぐに漱石の完成原稿の所有者になることは不可能なのである．［改行］ところが，漱石については一つだけ原稿を入手するための「抜け道」が存在する．それは『道草』と『明暗』の反古原稿である．

第一線の研究者なら一品物である「反古原稿」に入手意欲を掻き立てられもしようが，我々のような庶民にはお馴染みの「複製もまた可也」という「抜け道」があるではないか．原稿の複製が出版されてさえいれば，名作や大作の原稿の束であっても「原稿の所有者になることは不可能なのである」とか，あるいは複製を所蔵する図書館を活用すれば，原稿をめくりながらの読書を実現できるではないかと開眼したのである．

手書きの原稿を複製で愉しむ

前稿「複製された初版本…」の執筆ちゅうも複製原稿の存在に適宜言及してはいたが，本稿のために改めて捜してみると，様々な自筆資料が様々な規模と忠実度で複製されていて，その蓄積の豊かさに日本の出版文化の成熟振りを実感させられた．ところが，自筆資料に誘ってくれる啓蒙的出版物が筆者の様な門外漢の視野を掠めるようになったのは世紀の変わり目前後であろう．例えば，日本近代文学館が所蔵する原稿から（概ね）1 葉ずつを精巧に複製したアルバム『複製近代文学手稿 100 選』（二玄社）の登場は 1994 年であった．古書店主青木正美蒐集の原稿の図版集は 1993 ～ 2004 年に多い．原稿の全葉をカラーで収録した集英社新書ヴィジュアル版『直筆で読む「坊っちやん」』と『直筆で読む「人間失格」』に驚かされたのは 2007 年と 2008 年であった．筆者に自筆資料研究の現況を教えてくれた『近代文学草稿・原稿研究事典』（八木書店）は 2015 年になってからの刊行である．[3] 更に，日本近代文学館の 2017 年冬季企画展を書籍化した『小説は書き直される：創作のバックヤード』（秀明大学出版会）が地方在住者に原稿の抱合する面白さを伝えてくれたは 2018 年末と，筆者が前稿を発表した直後のタイミングであった．

ところで原稿といっても，草案メモ～草稿～未定稿～完成稿～校正稿～清書稿～出版後の加筆など段階が多様で，本文はその都度変化を重ね続けると考えられる．故に校異という手続きを煩わしがってなのか，研究者の間には原稿類を敬遠する傾向が見られるらしい．[4]『事典』(pp. 54 & 52)では，漱石に関する限りでは「原稿が一番信頼できる」とする秋山豊も，原稿を用済みの骨董品と見

[3] 以降『100 選』とか『事典』とか略記する．なお，『事典』巻末の「重要複製本リスト」(pp. 14-18)は原稿の複製情報に特化していて，本稿の執筆を着想させた．

[4] 例えば，『赤い鳥』に掲載する際に鈴木三重吉が芥川龍之介に無断で「蜘蛛の糸」ちゅう 120 箇所で朱筆を入れた痕跡が原稿の複製にも残されている．当然，系統を異にする本文の存在が問題になってくる．川島が上掲書(p. 232)で触れた近代文学研究者の原稿への冷淡さは，研究の出発点は公刊された本文也と認識されていた反映なのであろうか．

做す専門家的発想を容認しているようにも見える.

> 作者の自筆原稿は，初出の新聞や雑誌のためのものであって，ひとたび活字化されると，その権威を活字に譲ってしまう傾向があった．活字になって著者の校正を経れば原稿は用済みとなり，多くの場合，破棄されてしまったと考えられる．文壇の大家や人気作家のなかには，大切に保管されてきたものもあったが，それはどちらかといえば骨董的な趣味から発した関心のもたれ方で，文学作品のテキストとしては顧みられることが少なかった.

しかし中島国彦は,「草稿や原稿が残っているからといって，それは作品そのものの価値，作品世界の文学性によるエネルギーとは別だ」と弁えつつ，自筆資料を介して「テクストに接する時の行間を読む姿勢，作品の「息づかい」や言葉の「機微」への想像力といったものが,絶えず試されるようになった」と,『事典』の冒頭(pp. 7 & 8)で述懐しているように，原稿段階に遡及して作品に迫ろうとの機運が顕在化しつつあるかもしれない．出版界でも，このように啓蒙的な『事典』が試みられたり，有名作家の作品原稿をゲーム世代に読ませようとする『文豪とアルケミスト文学全集』（新潮社，2017）のような企画が打ち出されたのも目新しい現象だからである.

活字本に馴染んできた大多数の読者は，手書きの原稿と聞くと，旧漢字と変体旧仮名が連綿体で書き崩された古文書をイメージして,「とてもじゃないが敷居が高くて…」と及び腰になろう．筆者も同様であったが，教室で読まされているのではないから，急ぐことなく指で筆順をなぞったり活字本を盗み見たりしながら，ヴィジュアル版の『直筆で読む…』は軽く読了してしまった．また『たけくらべ』には，樋口一葉の（橘千蔭流とか称せられる）水茎の跡に親しもうと,活字に起こした翻刻に（かなりの程度）援けられながら読んでしまった．そんなふうにして趣のある筆跡を辿り，半紙に筆を滑らせる人間を想像しながら原稿をめくるうちに，少しずつ手稿に馴染んでくるように感じられてきたのである．活字本では雲散してしまう試行錯誤の痕跡としての〝吹き出し〟や〝見せ消ち〟を眼前に捉えられて興味が尽きない．想像力次第では，お気に

入りの作家がペンを走らせる音を原稿紙から聞き取れるかもしれないし，髪を掻き毟りながら枡目を埋めようと苦闘する姿をイメージできるかもしれない．そんなふうに原稿に溶け込めれば，それが複製であっても，初版本を繙くよりも一層身近に作家の存在を感じ取れるのではなかろうか．

公刊された作品の本文は原稿における以上に熟成して安定していると考えがちなものである．ところがそうでない場合もあって，例えば大岡昇平の改筆好みは編集者泣かせであったと知られているし，永井荷風は裏向きの原稿執筆と公刊用の本文を併行させたものである．井伏鱒二は晩年に「山椒魚」の結末を引っ繰り返した．内田百閒は旧漢字・旧仮名遣いの保持を厳命したが，歿後の文庫版全集では新字新仮名に入れ替えられた．岩波版『漱石全集』では改版の度に新たな編集方針が打ち出されて本文に対する調整が加えられてきた．また，多くの個人全集の編集に携わってきた藤田三男は，「意外なことだが…作家当人が推敲した第一次公刊本より，初出の方が作品として優れているというケースが多かった」と，経験を踏まえた知見を『事典』(p. 93)で語っている．であればこそ我々読者は，趣味人を以て自らを任ずるのであれば，片言隻句の異同には煩わされることなく与えられた本文から作品世界に飛び込む謙虚さがあってこそ自分本位の読書姿勢を実現できるのではないか．どの段階の原稿であれ，その領域の専門家(たち)が複製に値すると評価し，出版社がそれなりの需要を見込んでの複製であろうから，完成稿でなくても，枚数が揃っていなくても，むしろ作品との邂逅に感謝しつつ伸びやかな気持ちで原稿と向き合い，あるべき本文を求めて奮闘中の書き手の心境とその営為を共にしたいものである．[5]

[5] 原稿用紙や和紙の紙質が再現されて原寸原色による全葉の複製を理想とするが，製本版もめくり易いので有り難いし，部分的複製でも邂逅を慶びたい．しかし，そうした資料に関わるようになると，活字化されない前のプライベートな世界に踏み込んでいいものかと躊躇われてもくる．理屈としては，印刷され公表されて以降の本文が執筆者の責任範囲であって，それ以前の舞台裏は他人に覗かれたくないであろう．いわゆる生原稿類の流出に向けた警告の文章をときおり目にする所以でもある．最近でも，中村稔の『文学館を考える』（青土社，2011）には著作権法に照らした考察を見るし，当事者の心情

但し，複製で刊行されたにしても印刷部数が限られているのが実状であるから，新刊書店から取り寄せられるチャンスはかなり少ない．筆者の場合はamazonで〝中古商品〟を捜したり，〝日本の古本屋〟やネット・オークションに出品を検索して，財布とも相談しながら購入するよう心掛けてきた．行きつけの図書館のOPACも念のためチェックしてみる．ILL(相互貸借係)を煩わせて所蔵館から借覧できた場合も多々ある．孰れにしても文献探索には根気と執念が不可欠であり，そうした努力は思いの外に報われるものであるから，めでたく入手し得た複製があれば，それを手始めにして贅沢な読書生活を先ず体験してみてはどうであろうか．そしてそのためのガイド役を期待して，本稿に翻刻の有無，▲初出誌紙，△初載刊本，▽最近の流布本等について，筆者なりの管見から情報を添えるようにした．

さて，ワープロによる執筆と入稿が当たり前になった現在でも手書きの原稿を残す著述家は〝絶滅危惧種〟になりかけている.[6] 換言すれば，年月の経過につれて自筆資料は相対的に希少価値を増すことになるので，（希望的観測としては）各地の図書館や作者ゆかりの文学館などがコレクションの充実に励んでくれよう.我々一般人もアンテナを張っていれば,そうした新収蔵資料がネットに公開されたり紀要に転載されるケースに遭遇するかもしれないし．複製材料に選択の幅が広がれば出版業者も食指(しょくし)を動かされるであろう．顧みるに1980年代の原稿複製は投資対象に利用されがちであった．オリジナル原稿の零葉をオマケに付けたり手刷りの版画などを挿み込んだりして，当時は少部数

を察した「哀しき生原稿」を清水真木は『文藝春秋』に2011年2月に寄せていた．他方2021年2月の報道では，大江健三郎が1万枚の自筆資料を研究用として母校に寄託したとあり，執筆行為の楽屋内を（他者の閲覧を前提に）保存する姿勢も見られる．研究においては未公開資料や生原稿を用いる際には相応の配慮がなされると想定できるからであろう．いっぽう，ほとんどの読者が接する自筆資料は出版機関による複製であろうから，公刊本を引用したり転載する場合と同様の礼儀をわきまえておけば，読者の側で抑制的になる必要はなく，むしろ好奇心旺盛に原稿をめくって構わないと考える．

[6] ちなみに池澤夏樹は，『本は，これから』（岩波新書，2010）において，自分は1988年に「ワープロで書いた最初の芥川賞作家だった」(p. i) と言い切って期を画する．

の高額な豪華本で発行される傾向にあった．本稿に関連して思い当たるだけでも，1982 年に『一葉たけくらべ絵巻』が 20 万 8,000 円，1988 年の川端康成作『「四季」より』は 88 万円，1993 年の『心 漱石自筆原稿』は 22 万円（税込）辺りが目立つが，これでは研究者でも発注を躊躇うだろうし，図書館は（受贈はしても）購入を避けようとするから，複製原稿の普及に直結し難かった．ところが歳月の経過と共に，希少性を裏付けていたオマケが抜き取られたり，仰々しい大箱が場所塞ぎなため破棄されたり，旧漢字旧仮名遣いが敬遠されてくると，こうした豪華本が古書市場やネットオークションに破格で出品されることがある．これもまた要因となって，（上述したように）一般的な読者が複製版を利用し易い環境は整いつつある．それでも尚手書きの原稿に親しもうとの機運が読書家の間に盛り上がらないようであれば，研究者に限定されるだけで，複製の需要は先細りになって，複製されても単価は上がり続けて，『直筆で読む…』のような好企画の再登場を見込めなくなろう．そうならないためにも，本稿のような微々たる書誌であっても読者の裾野を広げ得て，複製本の市場を刺激するくらいであって欲しいのである．

複製資料のリスト化にあたって

日本文学関連の自筆資料が複製されてきた歴史と現状は，本稿のような個人の試みでは把握しきれないので，網羅的書誌の実現については別の機会に譲り，ここでは筆者個人の価値観に照らして資料を選択し記述することにした．すなわち基本方針としては，前稿の「複製された初版本…」に立項された文筆家 185 名の顔触れに限定して，自筆資料が複製されてきた時間の流れを捉えることにした．両稿に共通して登場する作品があれば，原稿をめくりながら初版本を傍らにするという理想的な読書を実現できる．しかし，作品の方は前稿での 480 点に制限をせずとも，同じ人物の作品であれば複製の事例を幅広く拾いた

い．書き手と同じ文机に向かって原稿をめくりながら作品世界に游ぶ機会が多く得られると期待するからである．本稿を前稿に擬えて「複製された手書き原稿で日本近代文学を愉しもう」と命名した所以である．

なおその際に，自筆原稿であれば，完成稿以前の草稿であっても，枚数が揃っていなくても，記述に価すると見做した．筆者のような門外漢が原稿の段階に拘って食わず嫌いを決め込んでいては，読者としての視野を自ら狭めることになるからである．先ずはアクセスできる複製原稿を眼前に拡げて文筆家の姿を想像する愉しみをこそ求めるべきであり，本稿ではそうした三昧境へのガイドブックになるよう筆者なりにイメージする作家と自筆資料の取り合わせを積極的に記述する様に心掛けた．例えば，なるべく読了感の伴う枚数が紙媒体に複製されている事例を先ず求めた．したがって所蔵館の案内冊子に多い断片的図版類は，読み足らなさが残るので立項しないのを原則にした．関連書ちゅうの図版においてもまた然りである.[7] それでいて，會津八一や正岡子規ほどの能筆家の場合であってみれば，書道界でも墨痕の人気が高く，短冊・色紙・法帖等の自筆物が組版用原稿以上に複製されているのも実状で，その辺は柔軟に対応している．また原稿のデジタル画像については，ディスプレイでコマ送りをしながら読んだりプリントアウトしながら読んでいては原稿(用)紙をめくる感触を得難いこともあって，筆者としては採録に消極的であった．ネットへのアップ状況も常に流動的なので，筆者のようなアナログ人間には目が行き届かない.[8] また，有料提供されるデータ類に至っては押し並べて高額なので，所蔵する図書館は少なく，外部からの利用を受け入れる所蔵館は更に少ない．

ということで，ここからは釈明になるが，本稿に記述した約 500 項目のうち

[7] 転載された原稿の零葉は基本的に除外するが，筆跡を照合したり人物像を想像するためのサンプルとして，《参照文献(抄)》に何点か図版集を挙げる．
[8]『事典』(p. 209) に，「…岩波書店のご好意によって，草稿全点の画像が同社のホームページからダウンロード可能になっている」とあるのは 2015 年までのことのようで，2020 年現在では閲覧できない．

筆者が実見できた資料は 200 項目しかない.[9] 何しろ多くが DVD 版で発売された高額な自筆資料集に収録されており,《凡例》に並べた小林多喜二集(10 万円),太宰治集(9 万円),雑誌『改造』の原稿(30 万円)や滝田樗陰旧蔵の『中央公論』原稿集(45 万円)が福岡大学図書館に導入される気配は今のところないし,所蔵図書館を利用しようにもコロナ禍で敷居が高いしで,八方塞がりの窮状にある.アナログ人間の筆者としては,オペレーションソフトを進化させるパソコンとヴァージョンを選り好みするデジタルデータには付き合い切れず,清水の舞台から飛び降りて自腹を切るだけの覚悟ができないのである.それでも,未見の 300 件については,環境に恵まれた読書人が参照する場合を想定し,彼等に閲覧の機会を逸させないために,間接的情報を集めて各項目を構築した.窮余の策ではあったが,基本的情報において参照者の足を引っ張るような見当違いは犯していないつもりである.ある書物に,どんなジャンルの雑本であれ 100 冊も集めれば何かしらものが言えてくるとの経験則が示されていたので[10],本稿もその顰みに倣って,実見例が 200 前後の書誌ではあるが,日本文学へのちょっと目先の変わったアプローチ法を提案できるのではないかと楽観した次第である.

《凡 例》

○ 試作的な書誌であるため,収録範囲を前稿の「複製された初版本で日本近代文学を愉しもう」に立項された明治期～終戦前後の文筆家 185 名に限定したが,前稿での 480 作品の枠を越えて博く自筆資料の複製例を集め,選択的に記述した.[11]

---

[9] この「複製された手書き…(1)」に限って数えると,約 150 件が立項されていて,うち未見の項目は半数に及んでいる.

[10] 中野三敏『本道楽』講談社 2003 pp. 239 & 267.かつて本学の教授でもあった中野氏は 2016 年に文化勲章を授けられ,2019 年に他界された.

[11] 前稿では原寸原色原装のレプリカを〝複製〟と呼んだが,本稿では自筆稿に親しむと

○ 本名でなくても筆名や雅号など通りの良い**人名**で五十音順に立項し，その下位に複製された**作品名**の五十音順で配し，同題が並べば複製の発行年順とし，複数作品を扱っていれば後順に配すこともした.

○ 各項では，『書名㊀』，発行機関，年月日，部数，頒価などを筆者の調べ得た範囲で記す．但し紀要類は非売品が多く，頒価表示のある書籍でもほとんどが絶版になっているので，直接的な参考にはならないが心の準備への足しにはなろう.

○ DVD 版などデジタル画像についても，筆者の限られた閲覧環境により実見できなければ書誌情報を＊印付きで記述した．DVD 所蔵館に複写を協力して貰える場合（但し割り高）には，こうした情報にも出番があろう.

○ 原資料の原稿としての段階にはほとんど触れなかった．校異の調査は目的とせず，手書き文字に書き手の気配を想像しながら原稿をめくる読書法を提案するのが本稿の趣旨だからである.[12]

○ 原稿ばかりでなく，日記，書簡，色紙，墨跡，書画，詩稿などの自筆資料も複製されてきているが，本稿の趣旨と紙幅とに照らしながら，そうした事例については選択的に立項した.

○ 漢字や仮名遣いの新・旧については原則として参照元の表記を尊重し，年代を考慮して旧漢字の使用を推定した場合もある．ルビは筆者(藤井)によるものが多い．和暦はできるだけ西暦に換算したが，漢・洋数字を意識して使い分けてはいない．判型表示に一貫性はない．原寸とか原色とか云っても原資料との照合を経ての表現ではないし，写真版と影印とにも，あるいは多色刷りとカラーとに用語上の区別はない.

○ 原稿の形状をイメージし易いように，400 字前後の裏白の原稿用紙なら〝00

いう趣旨に適うのであれば，すなわち縮小された図版でも単色刷りであっても読了感が伴うのであれば記述の対象から外さなかった.

[12] その方面に疎い筆者としては，原稿用紙の規格～筆記具～執筆時期～本文の校異等に煩わされず，寛いで作品世界に耽る体験を第一義としたい.

枚〟，200 字程度の半截判いわゆる半ペラを〝半 00 枚〟，和本仕立てに袋綴じされて〝00 丁（表 / 裏）〟，単体としては〝00 葉〟，嵩を記すには〝00 頁〟，範囲を示すには〝pp. 00-00〟，単なる紙面は〝ページ〟あるいは〝頁〟のように表現を使い分けた．但し書籍毎の総頁数の採り方は一貫していない．[13]

○ 自筆稿を読み進める援けとして，翻刻（活字に組んだ本文）の有無，▲初出誌紙，△初載（と思しき）刊本それも前稿に挙げられた初版本であれば網掛けにして，▽比較的最近の掲載本を捜して，其々簡単な書誌情報を添えた．

○ 関連情報のうち【参考】と【付記】を意識的に使い分けていないが，ニュアンスとしては前者が「関連して…」，後者は「ちなみに…」くらいに区別されようか．

○ 文字数節約のため，〝同〟を多用したり，…で中略したり，自明の発行機関名を落としたり，大日本雄辯會講談社でも講談社で済ませたり，参照先もなるべく略記する．したがって，国立国会図書館→ NDL．そこのデジタルコレクション→ NDL-DC．国立情報研究所学術情報データベース→ CiNii．『「改造」直筆原稿の研究』（雄松堂出版，2007）の付録 DVD →『改造 DVD』．川内まごころ文学館編集の 3 冊ある図録『総合雑誌「改造」直筆原稿収蔵図録：大正・昭和文芸レトロの世界』（2004 ～ 10）→『改造 原稿図録』．DVD 版『滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集』（日本近代文学館，2011）→『樗陰 DVD』．『日本近代文学館編複製近代文学手稿 100 選』（二玄社 1994）→『100 選』といった表記になる．[14]

[13] ほとんどの解題で前付・後付・白紙頁などの数え方が定まっていないので，筆者の記述でもこうした数字は近似値でしかないことを容認して欲しい．

[14] 本稿にいちいち断らなかったが，『100 選』は精巧に複製された 100 葉のアルバム．また『改造 原稿図録』は基本的に縮小多色刷りの図版集であるが『改造 DVD』の充実振りを彷彿させてくれる．

複製された自筆資料のリスト

會津 八一（1881-1956）：

本名は 1881 年 8 月 1 日の誕生に由来．号秋艸道人（しゅうそうどうじん），渾齋．

□『景印 秋艸堂**學規** 別添付』 東峰書房 1983 年 12 月 20 日 8,000 円．1947 年頃にペン書きされた随筆半 4 枚で，十三回忌のタイミングで発見された．その末尾には 4 箇条の人生訓「學規」が見られる．原寸原色で複製され，宮川寅雄による別冊「「秋艸堂学規」解題」(7 頁)に翻刻が付く． △『會津八一全集⑩：補遺』中央公論社 1969 年 8 月．初載． ▽『續渾齋随筆』中公文庫 1980 年 1 月．▽『會津八一全集⑦：随筆』中央公論社 1982 年 4 月．【付記】：十三回忌の回想集『渾齋』（私家版，1968）には未収録であった．

□『**閒庭**帖（かんてい）：秋艸道人二種』 中央公論美術出版 1969 年 7 月 1 日 400 部 5,000 円． 1945 年 3 月の詠草「閒庭」44 首と「**銅鑼**」5 首は戦災に遭ったが，大鹿卓が書写していた記録から八一が改めて揮毫した 11 丁の和本を恐らく原寸原色で複製．巻末に「読み」(2 頁)と松下秀麿による「解説」(5 頁)が合綴されている． ▽「**閑庭**」として，『同全集④＆⑤：短歌上＆下』同 1982 年 3 月＆5 月．⑤に自註．

□『**観音堂** 秋艸道人』 長野：北島書店 1966 年 7 月 14 日 500 部 1,200 円．1945 年 4 月の空襲で落合村(東京市)の秋艸堂が罹災して，八一は養女紀伊子（きいこ）を伴って新潟の縁戚丹呉康平所有の持仏堂に仮寓して，同年の 7 ～ 10 月に「柴賣」と共に詠んだ 16 首の書帖．彼はその頃に何度か同様の揮毫をしたが，本書の原本は 1945 年 11 月 5 日付の吉池進所蔵本．第 25 丁までの表に原寸原色でコロタイプ印刷し，第 26-27 丁では裏表に釋文を添える．▲『藝苑』巖松堂書店 1945 年 10 月．11 首のみ． ▽『同全集④＆⑤』(上述)．

□『**觀音堂**』 中央公論美術出版 1970 年 12 月 1 日 400 部 1 万円． 宮川寅雄が所蔵する 1946 年 6 月 25 日揮毫の書帖を折り本の片面 17 頁に原寸原色で複製．別冊で宮川執筆の「観音堂 解題」(28 頁)が付く．

□『丹呉本 **観音堂** 秋艸道人』　教育書籍　1981 年 10 月 1 日　480 部　3 万 2,000 円.　　観音堂を八一の仮寓先に提供した丹呉康平のため 1945 年 11 月 7 日に揮毫した書帖で，棟方志功たち描く 3 図を添えて折り本の片面 26 頁に原寸原色で複製．宮川寅雄の「丹呉本観音堂別冊」(30 頁)付き.

□『會津八一自筆本 **菊のつくり方**』　求龍堂　1977 年 2 月 25 日　350 部　2 万 9,000 円.　　未発表のまま會津八一記念館(新潟)に所蔵されていた晩年の自挿画付き毛筆文. 唐紙 4 枚を原寸単色刷りで巻子本に複製. 宮川寅雄の「解題」は折り本.　▽『同全集⑪：日記・雑纂』同 1982 年 10 月.

□『**殘燈集** 稿本』　中央公論美術出版　1972 年 9 月 5 日　300 部　1 万 7,000 円. 1944 ～ 45 年詠の 172 首をペン書きにした，1947 年の最終歌集『**寒燈集**』に結実する前の草稿㊥75 枚で，八一の歿後に発見された．それを原寸原色で複製するが，宮川寅雄による別冊「殘燈集稿本解題」(12 頁)には翻刻が無い.　△『寒燈集』四季書房 1947 年 4 月.　▽歌章別に,『同全集④』(上述) pp. 210-264.　▽「自註版寒燈集」として,『同全集⑤』(上述).　【付記】:『100 選』――No. 28 が『寒燈集』と『鹿鳴集』(1940) に分載される前の歌稿 1 枚.

□『**村荘雑事** 覆刻版 秋艸道人』　東峰書房　1967 年 6 月 20 日　380 部　2,300 円.　　八一は『南京新唱』(後述) から「落合村荘平常の漫吟」(凡例)たる 17 首を書き抜いた 10 丁を 1934 年頃に 2 組揮毫しており，安田邦文堂(淀橋區)から銅版で影印本を出そうとしたらしい．本書では會津家所蔵のものを原寸原色で複製する．宮川寅雄による「『村荘雑事』解題」(42 頁)が別冊.　△『南京新唱』春陽堂 1924 年 12 月.　▽『同全集④&⑤』(上述).

□『**頂戴物圖録** 會津八一』　中央公論美術出版　1973 年 11 月 30 日　500 部　1 万 7,000 円.　　1945 年の 4 月に秋艸堂が罹災し，養女にした義妹紀伊子を 7 月に新潟で喪い，10 月になって上洛していた八一に届けられた見舞品をスケッチした墨画等を片面 19 丁に貼り込んだ折り本で，世話になった伏見の増田德兵衛に贈られた．それを原寸原色で複製し，宮川寅雄の「頂戴

物圖録解題」(8 頁)を添える.

□『**山鳩** 秋艸道人』 中央公論美術出版 1971 年 8 月 15 日 500 部 1 万 7,000 円. 1945 年 7 月に病没した養女紀伊子追悼の 21 首を 8 月に詠む. 原本は京都：増田德兵衞(私家版) 1945 年 12 月 10 日. 香典返しにされた.「丙戌三月」(1946 年)の題簽が貼られた折り本に墨筆半18 枚を貼り込んで原寸原色で複製. 別冊として宮川寅雄著「山鳩解題」(15 頁). ▲『象徵』福村書店 1946 年 10 月. △『寒燈集』(上述). ▽『同全集4&5』(上述).

□『秋艸道人墨戲』 中央公論美術出版 1965 年 7 月 20 日 350 部 6,000 円. 八一が「閑餘にかき候ものにて記念として身後にのこしたく」と料治熊太宛(1925 年 7 月)に託すようになった墨画を原寸原色で折り本仕立てに複製. 永年親炙してきた料治は, 別冊の「『秋艸道人墨戲』帖について」(12 頁)において, 八一の私人的側面を回顧しつつ, 貼り込まれた 9 枚や「自画像」などを解説する.

□『會津八一の法帖(ほうじょう)』 中央公論美術出版 1979 年 2 月 25 日 3,000 円. 八一の代表作たる「**村荘雜事**」,「**東大寺大佛讃歌**」,「**山鳩**」,「**印象**」,「**飲中八僊歌**」(杜甫作),「**觀音堂**」,「**筌篌引(くごのいん)**」(李賀作) の全葉を縮小した単色写真で 75 頁に集成. 巻末の「會津八一の法帖について」(pp. 5-33)で宮川寅雄が翻刻と概説.

□『會津八一筆 袖珍詩歌帖 四種五冊』 中央公論美術出版 1986 年 7 月 25 日 300 部 6 万 8,000 円. 八一の書風は 5 期に変化するらしいが, 會津八一記念館(新潟)は所蔵品から「結構は華麗となるが, まま荒蒼の気味もある」第二期の書風を窺わせる豆本サイズの書き帖「**耶馬溪帖**」,「**白雲悠々**」,「落花風裡」(仮称),「一口吸盡」(仮称),「旧都逍遙」(仮称) を原寸原色で複製した. 長島健(編修)/ 松下英麿(解説) による「解題」(17 頁)付き.

□『新潟市會津八一記念館所蔵 秋艸道人會津八一墨蹟《書簡・原稿》』 同館(編)/ 二玄社(刊) 2002 年 1 月 16 日 税別 1 万 3,000 円. 書簡を pp.

6-131 に，原稿を pp. 132-176 に，それぞれ相応のサイズにして多色刷りで複製し，pp.177-190 に「釈文 / データ」を配した大型本(33×27㎝)．収録された作品原稿は，「**西遊咏艸**」(1908)：4 枚．「自註**鹿鳴集**」(1953)：16 枚．「**山鳩**」(1945)：半12 枚．「**殘燈集**稿本」(1945)：半 7 枚．「**学規**」(1950)：半 4 枚＋幅 1 枚＋額 2 枚．「**リーチさん**」(1953)：4 枚半．「**會津記念館陳列室由來**」(1955)：23 丁．「**菊のつくり方**」(未刊)：巻子本．「**端艇部脱会願**」(1898)：1 枚．「**女十句集**」(1901)：6 枚． 【付記】：サイズ，収録範囲，図版の仕上がりにおいて座右に手頃な一冊で，〖漢字〗篇と〖かな〗篇も同時に刊行されている．

【参考】：「書誌」『同全集⑫：雑纂・索引』同 1984 年 5 月 pp. 547-600．ほどほどに詳しい會津本の概要． 【付記】：本稿では色紙や墨跡には深入りしない方針ながら，八一のような書画の味わいで親しまれている文人には相応の対応を採ることにした．

秋田 雨雀 (1883-1962)： 本名徳三．

□ *「**眠から覚めよ**」『改造 DVD』——No. 2. 関東大震災に関わる散文詩で，第 1 ～ 2 連の 6 行が伏せ字にされた 4 枚． ▲『改造』1923 年 10 月．▽『秋田雨雀詩集』弘前：津軽書房 1965 年 4 月．伏せ字を残す．

□「**夢二の草稿を見て**」『九十九里へ 夢二』 青燈社 1940 年 9 月 1 日 600 部 6 圓． 竹久夢二(後出)の墨筆本である本書に寄せられた巻末の 3 丁．旧友と参加した 1916 年 4 月の水戸講演旅行を雨雀が回顧した 1940 年 7 月の墨筆文．単色で恐らく原寸での印刷．

芥川 龍之介 (1892-1927)：筆名柳川隆之介．号我鬼，澄江堂(ちょうこうどう)主人，壽陵餘子．

□「「**或阿呆の一生**」草稿」『芥川龍之介資料集』 山梨県立文学館 1993 年 11 月 3 日 500 部 頒価不明 pp. 331-354. 「完成稿としてよい」(解説

巻，p. 29)段階にある半94枚を単色50%サイズでNo. 1-92として掲載．この『資料集』（図版2巻＋解説1巻）については改めて立項する．▲『改造』1927年10月．△『芥川龍之介全集④』岩波書店 1927年11月．▽『西方の人』岩波書店 1929年12月．【参考】:『群像日本の作家⑪』小学館 1991年4月 pp. 90-99. 半10枚と，口絵にカラーでその他の自筆資料も掲載．

□ 保坂雅子・古守やす子・名執弘美 「芥川龍之介「**或海軍士官の話**」草稿他」『資料と研究⑮』 山梨県立文学館　2010年3月12日　pp. 76-110.　「或海軍士官の話」他の草稿で『芥川龍之介資料集』（後述）には未収録の断片半50枚を60～40%に縮小した単色写真でpp. 81-110に掲載，pp. 76-80で解説する．▲「猿：或海軍士官の話」として，『新思潮』新思潮社 1916年9月．△「**猿**」として，『羅生門』阿蘭陀書房 1917年5月．▽『芥川龍之介全集①』岩波書店 1995年11月．

□ *「**或旧友へ送る手記**」『改造 DVD』——No. 4.　芥川の遺書半17枚．佐佐木茂索夫人ふさが清書して『改造』（1927年9月）に送った原稿らしい．▲『東京日日新聞』1927年7月25日．他諸紙誌も報じた．△『同全集⑥』同 1928年8月．▽『文藝的な．余りに文藝的な』岩波書店 1931年7月．【参考】:日本近代文学館は芥川直筆の半18枚を所蔵しており，『改造 原稿図録①』——②が両稿から1枚目を並べる．

□ 『**河童** 自筆原稿複製』 中央公論社　1972年2月25日　385部　1万3,000円．NDL所蔵の完成稿半205枚を3色オフセットで原寸に印刷し和綴じする．吉田精一が別冊「'河童'原稿複刻解説」(8頁)で初出誌と本文を照合．▲『改造』1927年3月．△『同全集④』同 1927年11月．▽『大導寺信輔の半生』岩波書店 1930年1月．【付記】:NDL-DCは半2枚の「河童原稿縁起記」[15]と共にカラー（106コマ）で公開．

[15] 芥川から直々に原稿を贈られた長崎の趣味人永見徳太郎の筆によるもので，吉田も本書の別冊解説で25%に縮小した写真と翻刻を紹介している．

□『芥川龍之介「**蜘蛛の糸**」直筆原稿複製』 県立神奈川近代文学館 2004 年 4 月 24 日 1,500 円. 『赤い鳥』に掲載する際に鈴木三重吉が独断で加えた 120 箇所の朱筆が残っている原稿㊥15 枚を原寸原色で複製. 別冊で「芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿について」(13 頁)が付く. ▲『赤い鳥』1918 年 7 月. 創刊号. △『傀儡師』 新潮社 1919 年 1 月. ▽『同全集①』同 1927 年 12 月. 原稿通りに本文を復原. 【参考】:『芥川龍之介集②』大阪:和泉書院 1987 年 10 月. 初出紙誌から記事を複写. 【参考】:『小説は書き直される』(上述)の「鈴木三重吉」(pp. 90-96)に縮小多色刷り図版㊥ 4 枚あり. 【付記】:『100 選』——No. 58 に冒頭の㊥ 2 枚.

□ 葛巻義敏(編)『**椒圖志異**(しょうずしい) 芥川竜之介』 ひまわり社 1955 年 6 月 15 日 3,000 部 270 円. 旧制中學五年～大學二, 三年に聞き書きしてきた妖怪談を記録した大学ノート 40 頁で, 晩年に及ぶ作風を窺わせる資料として原寸単色で複製され, 甥の葛巻が綴じ込みの「解説」(2 頁)を執筆. △『芥川龍之介全集⑲』岩波書店 1955 年 8 月. ▽『同全集㉓:目録・講演メモ他』同 1998 年 1 月. ▽『芥川龍之介集 妖婆』ちくま文庫 2010 年 10 月. 【参考】:『小説は書き直される』pp. 32-34.

□ *「**續西方の人**」『改造 DVD』——No. 3. 1927 年初出の「西方の人」を補うべく自殺前夜まで執筆していた㊥44 枚. ▲『改造』1927 年 9 月. 葛巻義敏が清書して入稿したらしい. △『西方の人』岩波書店 1929 年 12 月. ▽『同全集⑮:歯車・西方の人』同 1997 年 1 月. 【参考】:日本近代文学館は直筆原稿㊥45 枚を所蔵しており, 『改造 原稿図録①』——②が両稿から 1 枚目を並べる.

□「**奉教人の死**」 NDL-DC がカラー(53 コマ)で公開する完成稿㊥48 枚. ▲『三田文學』籾山書店 1918 年 9 月. △『傀儡師』新潮社 1919 年 1 月. ▽『同全集①』同 1927 年 12 月. ▽各種文庫で読める. 【参考】:『芥川龍之介集②』大阪:和泉書院 1987 年 10 月. 初出紙誌から記事を複写.

□『「**羅生門**」山梨県立文学館蔵芥川龍之介資料より』 同館 1999年8月 150円. 同館の『芥川龍之介資料集』（後述）から関連ノート及び草稿の一部を縮小して単色で複製した34頁の冊子. ▲『帝國文學』大日本圖書 1915年11月. △『羅生門』阿蘭陀書房 1917年5月.

□ 角田忠藏(編纂/解説)/中村眞一郎(序文)『芥川龍之介自筆未定稿圖譜』大門出版美術出版部 1971年9月10日 特製版92部 8万2,000円/380部 3万8,500円 《B4判/220頁》. 「多様な芥川自筆未定稿二百余枚を，発表された作品名にしたがって精密に分類整理し，これを能うかぎり実物そのままの図版に復元」(序文). 右頁に原稿の（多くは縮小した単色）写真版，左頁上段にその翻刻，中段に全集から本文を転載，下段に書誌的付記というレイアウト.

□ 山梨県立文学館(編)『芥川龍之介資料集』 図版2巻+解説1巻 同館 1993年11月3月 500部 頒価不明. B4判の「図版①」(719頁)と「図版②」(同じく719頁)が，甥の葛巻義敏から三茶書房主岩森亀一を経て同館に納まった草稿・未定稿・ノート・断片・メモ・日録など5千余点を様々な縮尺の単色写真で集成する. 別に「解説」(99頁)が，図版を「カラー口絵」5件,「1. 小説・随筆 草稿・関連草稿」139件,「2. 小説・随筆 未定稿」171件,「3. 詩歌 草稿・未定稿」4件,「4. ノート類」68件に分類して各400字前後で解題する. ▽『同全集㉑～㉓』同 1997年10月～98年1月. 【付記】: 芥川が丸めて投げ捨てる片端から伯母が皺を伸ばして保存してきた草稿類が1971年の『芥川龍之介自筆未定稿圖譜』（上述）や本書に繋がったと，川島幸希が新潮選書の『直筆の漱石』(2019, pp. 168-174)で教える.

□ 井上康明 「芥川龍之介の手帳（手帳一, 手帳十, 手帳新)」『資料と研究③』山梨県立文学館 1998年1月31日 pp. 59-103. 同館所蔵のノートから3点について，各冊の表紙と2頁ずつ見開きにした各41，17，24枚の単色写真を縮小して掲載. ▽『同全集㉓』同 1998年1月 pp. 257-467. 12冊の手

帳を翻刻. 【付記】:『芥川龍之介資料集』(上掲) が No. 4-68 として「手帳二」(73 頁)を見開きにした 37 枚の縮小単色写真を pp. 707-719 に掲載.

□ 古守やす子 「芥川龍之介草稿:〈**片恋**〉**「鼻」〈或日の大石内蔵助〉「秋」「お律と子等」**」『資料と研究⑬』 山梨県立文学館 2008 年 3 月 31 日 pp. 45-73. 書誌的解題(pp. 45-48)に続き, 同館所蔵で『芥川龍之介資料集』(上掲) 未収録の草稿㊮48 枚を 40%に縮小し単色で掲載する. その内訳は, ❶〈片恋〉⇨ ㊮6 枚(pp. 49-52)+2 枚を口絵にカラー印刷. ❷「鼻」⇨ ㊮2 枚(p. 53). ❸〈或日の大石内蔵助〉⇨ ㊮12 枚(pp. 54-59). ❹「秋」⇨ ㊮10 枚(pp. 60-64). ❺「お律と子等」⇨ ㊮17 枚(pp. 65-73). 【付記】: 断片的草稿ばかりなので完成作の掲載先までは記さない.

□ 保坂雅子 「芥川龍之介「手帳 13」について〈付写真版〉」『資料と研究⑱』 山梨県立文学館 2013 年 3 月 30 日 pp. 124-185. 「時間割, 住所・氏名, 書名, 詩, 短歌, 漢詩, 紀行文, 地図, 書き写しと思われるものなど様々で, 英文や数式も見られる」(p. 125), 一高から東京帝國大學入学の頃まで携行した横長のノートを見開きで 49 枚(98 頁) に, そして表紙も撮影し, やや縮小して単色写真版にする. 【参考】:『同全集㉓』同 1998 年 1 月. 12 冊の手帳を翻刻.

【参考】: 庄司達也(編)『芥川龍之介ハンドブック』鼎書房 2016 年 4 月. 乾英次郎が「直筆原稿・草稿類所蔵先一覧」(pp. 190-198)で生前発表作の完成稿・草稿・校正稿について 2014 年 3 月時点での所蔵先をリスト化して興味深い. また, 早澤正人による「文学館・資料館紹介」(pp. 199-205)も参考になる.

有島 武郎 (1878-1923): 号行正(ゆきまさ), 泉谷(せんこく), 由比ヶ浜兵六. 里見弴の兄.

□ *「**御柱**(おん)」『改造 DVD』——No. 10. 一幕物 35 枚. ▲『白樺』白樺社 1921 年 10 月. △『現代三十三人集』新潮社 1922 年 2 月. ▽『有島武郎全集⑤』筑摩書房 1980 年 12 月.

□『有島武郎未刊原稿 **かんかん蟲** 他二編』 日本近代文学館 1973年9月10日(近代文学研究資料叢書4) 200部 2,600円. 3作品の手稿を原寸単色（但し❶は多色刷り）で和綴じ本に複製し，瀬沼茂樹が「解説」(pp. 81-85）を添える. ❶「**かんかん蟲**」⇨ 1907年に毛筆で清書された23丁（pp. 3-48）. ▲『白樺』洛陽堂 1910年10月. △中西伊之助(編)『藝術戰線：新興文藝二十九人集』自然社 1923年6月. ❷「**慶長武士**」⇨ 學習院中等科五年生であった1894年末の歴史物習作7丁(pp. 49-62). ❸「**此孤墳**（このこふん）」⇨ 1895年の歴史物習作8丁(pp. 63-78)＋口絵1葉＋「批評欄内」(縮小）を単色複製. ———▽『同全集1』同 1980年8月. ❶❷❸.

□ *「**講演に對する私の希望**」『樗陰 DVD』. 随筆5枚. ▲『中央公論』1920年12月．小特集「地方講演について感ずる事」に掲載. △『同全集8』同 1980年10月．初載.

石川 啄木 (1886-1912)： 本名一.

□ 齋藤昌三(編）『稿本 **悲しき玩具**』 書物展望社 1936年11月10日 300部 非賣品(2圓50錢). 1910年11月～翌8月詠の192首を縦書き用ノートの左面50頁にペンで書き連ねる．「**一握の砂以後**」と標題されているように，『一握の砂』（東雲堂書店，1910）に続く歌集が意図されていた．そのノートを土岐善麿が原寸原色原装で複製し，1枚の「解説」を添える．▲既に185首が『東京朝日新聞』や『早稲田文學』等に発表されていた．△『悲しき玩具』東雲堂書店 1912年6月．土岐の編集. ▽『啄木全集1』筑摩書房 1967年6月．【参考】:『石川啄木集歌集篇』 和泉書院 1986年5月．初出紙誌から記事を複写.

□『石川啄木 **悲しき玩具** 直筆ノート』 盛岡啄木会 1974年4月13日(啄木忌） 1,300円. ノート「一握の砂以後」（上述）を原寸原色原装で複製する．また，土岐善麿が『悲しき玩具』(1912年，上述）に寄せた跋文を

別紙に転載し，巻頭に配された没後発見の 2 首の歌稿㊥ 1 枚も複製する．

□「**雲は天才である**」『小説は書き直される：創作のバックヤード』 日本近代文学館(編)/ 秀明大学出版会(発行) 2018 年 12 月 20 日 2,500 円 pp. 97-106. 啄木最初の小説で 1906 年に起稿された．草稿は 84 枚らしいが，本書は 1，29，33，41 枚目を ⅔ サイズにして多色刷りで掲載． △『啄木全集①』新潮社 1919 年 4 月．未完のまま草稿で託されていた土岐善麿が活字化． ▽『雲は天才である』講談社文芸文庫 2017 年 6 月． 【付記】:『100 選』——No. 41 が 1 枚目を複製．

□『復刻版 石川啄木**黄草集**(こうそう) 付残花帳・誕生日メモ』 盛岡啄木会 1976 年 3 月 7,800 円． 『あこがれ』(小田島書房，1905) に続く詩集を意図して 1905 年 3 月～翌年 11 月発表の詩 36 篇を 81 頁に清書した横書き用ノートで，表紙に〝Yellow Leaves〟のラベルがある．しかし第二詩集としては実現しなかった．ノートの巻末には，随想記事「残花帳」の切り抜きが 37 頁に亘って貼り込まれ，朱筆も加えられている．本書はその原寸原色原装による複製で，土岐善麿・松本政治による挿み込み解説(4 頁)付き． ▲ 9 篇を除き『岩手日報』，『明星』，『白百合』，『小天地』，『野の花』，『むさしの』，『芸苑』に発表済み． ▽『啄木全集②』筑摩書房 1967 年 8 月．

□ 函館啄木会(編) 『**暇ナ時** 歌稿ノート』 八木書店 1956 年 10 月 10 日 1,000 部 1,300 円． 第一歌集を視野に，1908 年 6 ～ 10 月の 652 首を創作月順に 93 頁に亘って書き付けた横書き用ノートを原寸原色原装で複製する．なお，「東海の小島の磯の…」が記されたのと「金星會名薄」の各 1 枚が裏表紙側に見られる．別冊「解説」(8 頁) は義弟宮崎郁雨と女婿石川正雄が執筆． ▲ 114 首が「**石破集**」として，『明星』1908 年 7 月． △『**一握の砂**』東雲堂書店 1910 年 12 月．48 首のみ． ▽『啄木全集①』筑摩書房 1967 年 6 月． 【付記】: NDL-DC がカラー(92 コマ)で公開． 【参考】: 臼井吉見『事故のてんまつ』筑摩書房 1977 年 5 月 pp. 128-143.

□『**呼子と口笛** 石川啄木のノート』 盛岡啄木会　1975 年啄木忌(4 月 13 日) 1,300 円.　　1911 年 6 月の詩 8 篇を書籍の体裁に擬して清書した 132 頁の横書き用ノートを原寸原色原装で複製. ノンブルが 21 まで振られたうち本文は［1］～ 16 で，あとは中扉，題扉，目次. 解説「いま，よみがえる詩人の口笛」(4 頁)が挿み込まれている.　△『啄木遺稿』東雲堂書店 1913 年 5 月. 土岐善麿が編集.　▽『啄木全集[2]』筑摩書房 1967 年 8 月.　【付記】:『100 選』——No. 42 に扉と 1 枚の「ココアのひと匙」.

□「**呼子と口笛**」『群像日本の作家[7]：石川啄木』 小学館　1991 年 9 月 10 日　税込 1,800 円　pp. 75-89.　　本文 16 頁と，口絵に中扉と題扉，その他の自筆資料をカラーで掲載.

泉 鏡花（1873-1939）：　　本名鏡太郎.

□『自筆稿本 **義血俠血**』 岩波書店　1986 年 11 月 25 日　750 部　1 万 8,000 円. 和紙の半葉につき 400 字程で墨書された, 冒頭 1 丁を欠く 25 丁の［初］稿と，再稿 55 丁とがそれぞれ和綴じされた，慶應義塾圖書館が所蔵する 2 冊を原寸原色で複製する. 初稿は添削を受けるために尾崎紅葉に送られ，原題「**瞽判事**（めくらはんじ）」は尾崎により抹消された. 本書別冊の「解説」(125 頁)では，松村友視執筆の「初稿・再稿の概要および比較」(pp. 3-20)と「再稿と最終稿との比較」(pp. 20-41)，それに『鏡花全集[1]』（後述）から本文，更に別稿の断片 3 枚を収録する. 松村(p. 10)に拠ると，「第三の原稿，すなわち鏡花の原稿にもとづき紅葉が自らの筆で全面的に書き改めた最終稿は…巻子本に仕立てられており，現在金沢市の石川近代文学館に所蔵されている」由.　▲『讀賣新聞』1894 年 11 月.〝なにがし〟の名義で連載.　△『なにがし』春陽堂 1895 年 4 月.「義血俠血」と紅葉作「豫備兵」を併録.　▽『鏡花全集[1]』岩波書店 1942 年 7 月 / 1973 年 11 月(再版).　▽『泉鏡花集成[1]』ちくま文庫 1996 年 8 月.　【参考】:『鏡花全集[別]』同 1976 年 3 月 pp. 634-641 & 742-

745. 校異と解題. 【参考】:『群像日本の作家5』 小学館 1992年1月 pp. 67-78. 1から6丁表までと，口絵にカラーで巻子本冒頭. 【参考】:『小説は書き直される』(上掲) pp. 75-86. 縮小・多色刷りの図版. 【付記】: 題簽の〝瀧の白糸〟は「義血俠血」が戯曲化された際の演題.

□ *『**両頭蛇**』 私家版 1939年10月25日 300部. 紅葉が朱筆を入れた鏡花の自筆稿全7枚を（恐らく原寸）原色で複製. 泉家が門下の寺木定芳に編纂させて幽幻院鏡花日彩居士の七七忌[四十九日]に配った.「附冊」に肖像写真・年譜など. ▲『新著月刊』東華堂 1898年3月. △「**蛇くひ**」として,『鏡花全集4』同 1941年3月 / 1974年2月(再版). ▽塩見鮮一郎(編)『被差別文学全集』河出文庫 2016年8月.

【参考】: 檜谷昭彦「鏡花自筆原稿目録について」『鏡花全集25：月報25』同 1975年11月 pp. 8-11. 鏡花の推敲における傾向を草稿から指摘. 【参考】:「泉鏡花自筆原稿目録 慶應義塾圖書館藏」『鏡花全集別』同 1976年3月 pp. 627-716. 完成稿約180点のリスト.

井上 靖 (1907-91):

□「孔子」『群像日本の作家20：井上靖』 小学館 1991年3月10日 税込1,800円 pp. 120-129. 連載第6回の1，15～18枚目. 口絵には冒頭1枚をカラー印刷. ▲『新潮』1987年11月. △新潮社 1989年9月. ▽新潮文庫 2010年1月.

井伏 鱒二 (1898-1993): 本名滿壽二.

□『井伏鱒二著「**木山捷平の詩と日記**」』 広島：ふくやま文学館 2017年3月20日(福山の文学18) 500円. 〝阿佐ヶ谷会〟の将棋仲間であった木山の叙情的側面を回顧する22枚を45%大に縮小した単色写真(pp. 10-20), 初出誌本文(pp. 21-29), 本文異同(pp. 30-31). ▲『小説新潮スペシャル』

1981 年 1 月．　△『海揚り』新潮社 1981 年 10 月．　▽『井伏鱒二自選全集⑫』新潮社 1986 年 9 月．　▽『井伏鱒二全集㉖』筑摩書房 1998 年 10 月．

□『井伏鱒二「**兼行寺の池**」(前編)』　広島：ふくやま文学館　2010 年 3 月 31 日(福山の文学⑪)　500 円．　5 回連作の小説「兼行寺の池」の原稿(74 枚)を 45％程に縮小して単色写真で掲載するうち，❶「**野生の鴨**」⇨ 初回分 18 枚(pp. 4-12)と初出誌本文(pp. 24-30)．　❷「**母屋の法事**（ねんぶつ）」⇨「兼行寺の池(二)」に相当する 22 枚(pp. 13-23)と初出誌本文(pp. 30-37)．———▲『新潮』1978 年 1，2 月．　△「兼行寺の池」として，『海揚り』(上述)．　▽『同自選全集④』同 1986 年 1 月．　▽『同全集㉖』(上述)．

□『井伏鱒二「**兼行寺の池**」(後編)』　ふくやま文学館　2010 年 9 月 10 日(福山の文学⑫)　500 円．　『福山の文学⑪』に続いて 5 連作のうち❸～❺の原稿を 45％程に縮小して単色写真で掲載し，巻末に前田貞昭の「「兼行寺の池」自筆原稿から見えてくるもの」(pp. 37-47)を収録．　❸「**校歌と踊**」⇨「兼行寺の池(三)」と副題された 10 枚(pp. 4-8)と初出誌本文(pp. 22-25)．　❹「**兼行寺の池**」⇨ 4 回目の 13 枚(pp. 9-15)と初出誌本文(pp. 25-29)．　❺「**続兼行寺の池**」⇨ 最終回の 11 枚(pp. 16-21)と初出誌本文(pp. 30-33)．———▲『新潮』1978 年 3 ～ 5 月．　△「兼行寺の池」として，『海揚り』(上述)．　▽『同自選全集④』(上述)．　▽『同全集㉖』(上述)．

□ *「**紺色の反物**」『改造 DVD』——No. 18.　戦時中に宣伝部員として昭南(シンガポール)に派遣された経験に取材した 40 枚の小説．　▲『改造』1943 年 5 月．　△『御神火』甲鳥書林 1944 年 3 月．　▽『同全集⑩』同 1997 年 8 月．　【参考】：『改造 原稿図録③』——⑬が 1，2，21 枚目を掲載．

□『井伏鱒二「**昭南日記 昭和十七年日記**」・「**昭和十九年度日記**」』　ふくやま文学館　2020 年 3 月 20 日(福山の文学㉑)　700 円．　筑摩書房版全集(1996 ～ 2000)に未収録の日記で，巻末に前田貞昭による詳細な解説と注(pp. 34-76)が付く．　❶「昭南日記 昭和十七年日記」⇨ シンガポールにおけ

る 1942 年 9 ～ 11 月について備忘録風に記した縦罫の用箋 4 丁を 70％に縮小した単色写真(pp. 4-10)と翻字(pp. 28-29)．　❷「昭和十九年度日記」⇨和本の裏に書き留められた 1944 年 2 ～ 3 月の記録 30 頁を 75％に縮小した単色写真(pp. 11-27)と翻字(pp. 30-33)．

□『井伏鱒二著 **丹下氏邸**』　ふくやま文学館　2001 年 1 月 25 日(福山の文学[2])　800 円．　福山の豪農丹下家の屋敷を舞台にした短篇の原稿 32 枚をほぼ原寸大の単色写真で掲載し，初出誌本文を併載する．▲『改造』1931 年 2 月．△『仕事部屋』春陽堂 1931 年 8 月．▽『同自選全集[1]』同 1985 年 10 月．▽『同全集[2]』同 1997 年 2 月．

□『井伏鱒二「**「槌(ツヅ)ツァ」と「九郎治(クロッ)ツァン」は喧嘩をして私は用語について煩悶すること**」自筆原稿及び全集未収録自筆原稿三編』　ふくやま文学館　2013 年 12 月 10 日(福山の文学[15])　500 円．　4 作品の原稿を 45％程に縮小し単色写真で掲載，前田貞昭による詳細な解説(pp. 25-46)を付す．❶「**「槌(ツヅ)ツァ」と…**」⇨ 同地域で階級差を反映させる方言に着目した小説 15 枚(pp. 4-11)に初出誌本文(pp. 12-16)．▲『若草』寶文館 1937 年 11 月．△『同自選全集[1]』(上述)．▽『同全集[6]』同 1997 年 6 月．❷「**最初の映画見物**」⇨ 1950 年 6 月 28 日執筆の随筆 2 枚半(pp. 17-18)と翻刻(p. 19)．❸「**五月二十五日記**」⇨ 随筆 2 枚(p. 20)と翻刻 (p. 21)．❹「**跋**」⇨ 平川茂の私家版歌集『ふる里』(1964 年 11 月 24 日) の「跋」が掲載された頁と，その原稿 2 枚半(pp. 22-24)．井伏にとって主家筋に当たる平川との 60 数年前の思い出に触れる．　【付記】：❷～❹は筑摩書房版全集(1996 ～ 2000) に未収録．

□ 中野和子 「井伏鱒二「**釣宿**」原稿について〈付写真版〉」『資料と研究[18]』山梨県立文学館　2013 年 3 月 30 日　pp. 186-251．　初出誌との本文異同を記し，類似する井伏作品に触れてから，冒頭に「これは隨筆である」と特記された原稿 54 枚を 40％程に縮小して単色写真で掲載(pp. 198-251)．

▲『新潮』1970 年 4 ～ 6 月（全 3 回）．　△『早稲田の森』新潮社 1971 年 9 月．▽『同全集㉔』同 1997 年 12 月．【付記】：本書の「編集後記」に，「「小説」と「随筆」の境界が極めて曖昧といわれる井伏作品の特質の一端にふれ」られたとある．

□ 折居篤・河守和子 「井伏鱒二「**頓生菩提**」原稿」『資料と研究④』 山梨県立文学館　1999 年 1 月 31 日　pp. 107-191.　　推定 60 枚のうち 1 ～ 46 枚目を 40％程に縮小し単色写真で掲載(pp. 112-159)する．6 種の本文すなわち，原稿～初出誌～初載本～『川と谷間』(創元社，1939 年 4 月)掲載の「**冷凍人間**」(改題)～大幅に改稿された『同全集①』(筑摩書房，1964 年 9 月)～最終改筆の『同自選全集①』(上述) 間に発生した異同についても記述されている．　▲『改造』1934 年 12 月．　△『頓生菩提』竹村書房 1935 年 1 月．▽『同全集⑤』同 1997 年 3 月．

□『井伏鱒二著 **南島風土記**』 ふくやま文学館　2000 年 3 月 1 日(福山の文学①) 800 円．　　戦時中のインドネシアに取材した短篇 23 枚をほぼ原寸・単色で複製し，初出誌本文を併載するが頁付けは無い．　▲『新潮』1961 年 1 月．　△『無心状』新潮社 1963 年 12 月．　▽『同全集㉒』同 1997 年 9 月．

□ 溝口克己・保坂雅子 「井伏鱒二原稿「**泊鷗会**」「**青柳瑞穂と骨董**」について」『資料と研究⑤』 山梨県立文学館　2000 年 1 月 31 日　pp. 162-248.　　2 作品の原稿を 40％程に縮小して単色写真で掲載．　❶「泊鷗会」⇨ 保坂が原稿と後版本文の異同と内容で類似する井伏の 18 作品を略述してから原稿 23 枚(pp. 206-228)を複製．　▲『群像』講談社 1957 年 1 月．　△『還暦の鯉』新潮社 1957 年 6 月．　▽『同全集⑲』同 1997 年 11 月．　❷「青柳瑞穂と骨董」⇨ 実質 5 種類の本文を溝口が照合してから〝阿佐ヶ谷会〟を通して 40 年の親交があったフランス文学者青柳(没 1971)の蒐集品を紹介した随筆原稿 20 枚を掲載(pp. 229-248)．　▲『文藝春秋』1972 年 2 月．　△『人と人影』毎日新聞社 1972 年 5 月．　▽『同全集㉕』同 1998 年 7 月．

□ *「**波高島**（はだかじま）」『改造 DVD』——No. 17.　　半99 枚.　▲「**侘助**（わび）」として,『改造』1946 年 5 月→『人間』鎌倉文庫 同 6 月. 掲載先変更.　△『侘助』鎌倉文庫 1946 年 12 月.　▽『同全集11』同 1998 年 8 月.　【参考】:『改造 原稿図録1』——⑥が冒頭の半6 枚を 30 ～ 50%大で掲載.

□『井伏鱒二著「**備前牛窓**」』 ふくやま文学館　2019 年 2 月 15 日(福山の文学20)　500 円.　　1974 年 12 月～翌 2 月における滞在記 36 枚を 65%大に縮小した単色写真(pp. 8-43)と初出誌本文(pp. 44-54).　▲『新潮』1975 年 6 月.　△『同自選全集5』同 1986 年 2 月.　▽『同全集25』(上述).

□ 溝口克己・古守泰子 「井伏鱒二原稿「**本日休診**」の校異について」『資料と研究6』 山梨県立文学館　2001 年 1 月 31 日　pp. 232-323.　　原稿～初出誌～初載本～改筆が著しい新潮社版『同自選全集3』(1985 年 12 月)の間で本文校異(pp. 232-264)を試み, 連載初回分の原稿 59 枚を 45%程に縮小した単色写真(pp. 265-323)を掲載する.　▲『文藝春秋』1949 年 8 月～翌 5 月(全 4 回).　△文藝春秋新社 1950 年 6 月.　▽『同全集13』同 1998 年 9 月.　【付記】:『資料と研究7』同館 2002 年 1 月 pp. 67-101. 原稿の写真掲載は無いが, 1949 年 12 月の第 2 回目 15 枚と, 翌 5 月の第 4 回目 27 枚での校異を報告していた.

□「**姪の結婚**」『群像日本の作家16：井伏鱒二』 小学館　1990 年 12 月 10 日　税込 1,800 円　pp. 84-99.　　8 枚で, 連載 7 回目の始め ¼ のみ.　▲『新潮』1965 年 1 月～翌年 9 月. 第 8 回目から「**黒い雨**」と改題.　△『黒い雨』新潮社 1966 年 10 月.　▽『同全集23』同 1998 年 12 月.　▽各種文庫本で読める.

□『井伏鱒二『詩集朝菜集』(三好達治) 書入れ日記』 ふくやま文学館　2002 年 3 月 1 日(福山の文学3)　800 円.　　紙不足の戦時下に三好から贈られた『詩集朝菜集』(青磁社, 1943 年 6 月) が和紙製だったので, 井伏が余白に筆書きした 1943 年 8 ～ 11 月と 1945 年 6 月の日記を複製する. 右頁に

原寸の単色写真 17 枚．その対向に翻刻．△松本武夫『井伏鱒二年譜考』新典社 1999 年 12 月．「**昭和十八年日記**」のみを活字化．

上田 敏（1874-1916）：　号柳村．

□『**William Collins** Ueda Bin / Lafcadio Hearn（Y Koizumi)』 1931 年　非売品 《25×19㎝ /30 頁》．　英国抒情詩人 William Collins(1721-59) の odes に romanticism の黎明を読み出した 1896 ～ 97 年頃に手書きされた英語論文で，在学中の東京帝國大學文科大學英吉利文學科に提出された．蚊の目玉のような細字で添削を加えているのは，就任後間もない講師 Lafcadio Hearn であった．改造社版『上田敏全集』が完結した 1931 年に（おそらく版元が）300 部複製し，未亡人上田悦子が英文で colophon を記し，関係者に配られた．△『上田敏全集[7]』改造社 1930 年 10 月 pp. 272-296(左開き)．活字組み英文．▽『定本上田敏全集[8]』教育出版センター 1981 年 4 月 pp. 355-335．新組み．【参考】：松村恒（ひさし）「ハーンと上田敏のコリンズ論」『へるん[40]』松江：八雲会 2003 年 6 月 pp. 4-7.「Collins」の書誌的概要と新旧両版の『上田敏全集』で活字による再現法を比較する．【参考】：松村恒「上田敏と小泉八雲のウィリアム・コリンズ論」『大妻比較文化[5]』2004 年 3 月 pp. 109-135．謂う所の「書き込みのある古写本の翻字法」(p. 110) に基づく活字化について．

内田 魯庵（1868-1929）：　本名貢太郎→貢（みつぎ）．号不知庵．

□『自筆本**魯庵随筆**』 湖北社　1979 年 3 月 1 日(近代日本学芸資料叢書[1])　2,200 円．　1910 年 8 月～翌 3 月の日記兼古書古物に関する墨筆による雑記帳．[半]189 枚をやや縮小し単色で掲載するが，解説も翻刻も無い．△『内田魯庵全集[別]』ゆまに書房 1987 年 12 月 pp. 536-602．初の活字化であろう．▽『魯庵日記』講談社文芸文庫 1998 年 7 月．【付記】：NDL-DC が全頁をカ

ラー（103 コマ）で公開.

□「自筆日記『**魯庵隨筆**』（国立国会図書館蔵）」『内田魯庵書物関係著作集[3]』八木佐吉（編） 青裳堂書店 1979 年 7 月 15 日（日本書誌学大系[5]） 6,500 円. 原本は上述と同じで,「袋綴九六丁…一三四条の墨書」（p. 339）を pp. 123-316 に約 75％大に縮小して単色写真で掲載. 翻刻は無く, 巻末に朝倉治彦「『魯庵随筆』について」（pp. 338-341）と吉田悦志「自筆『魯庵随筆』一斑」（pp. 342-350）を併載する.

宇野 浩二（1891-1961）： 本名格次郎.

□ *「**ヘンリー・フォードのこと** その他」『樗陰 DVD』. 随筆 12 枚. ▲『中央公論』1924 年 5 月. 小特集「自動車横行時代」に掲載されたが, 単行本や中央公論社版全集（1968 ～ 69）には未収録.

□ *「**四人ぐらし**」『樗陰DVD』. 小説58枚. ▲『中央公論』1923年4月（春季大附録號）. △『心つくし』プラトン社 1924 年 4 月. ▽『宇野浩二全集[4]』中央公論社 1968 年 11 月.

□ *「**四方山**」『樗陰 DVD』. 小説 76 枚. ▲『中央公論』1924 年 6 月. △『創作集：高天ヶ原』春秋社 1927 年 3 月. ▽『同全集[4]』（上述）.

【付記】：水上勉「宇野先生の「口述」」『現代日本文學大系[46]：月報[55]』筑摩書房 1971 年 9 月.

小川 未明（1882-1961）： 本名健作.

□ *「**貸間を探がしたとき**」『樗陰 DVD』. 随想 8 枚. ▲『中央公論』1923 年 5 月. 小特集「當世百物語」ちゅうに掲載. ▽『幻想文学[47]』山梨：アトリエ OCTA 1996 年 6 月. ▽『文豪怪談傑作選：小川未明集 幽霊船』ちくま文庫 2008 年 8 月. 【付記】：講談社版『定本小川未明小説全集』（1979）には掲載が見られない.

□ *「**風に揉れる若木**」『樗陰 DVD』.　小説 78 枚.　▲『中央公論』1923 年 6 月 15 日(夏季増刊「知識階級と無産階級」號).　△『堤防を突破する浪』創生堂 1926 年 7 月.　【付記】:『同小説全集』（上述）に収録無し.

□ *「**虚を狙ふ**」『樗陰 DVD』.　小説 33 枚.　▲『中央公論』1921 年 7 月 15 日(夏季特別「都市と田園」號).　△『堤防を突破する浪』（上述）.　▽『同小説全集④』同 1979 年 7 月.　【参考】:『事典』は，未明における「初出誌や単行本で伏字となっていた当該箇所が，原稿から把握できる」(p. 168)事例のひとつとする.

□ *「**死者の満足**」『樗陰 DVD』.　小説 23 枚.　▲『中央公論』1924 年 2 月.　△『堤防を突破する浪』（上述）.　▽『明治大正文學全集㉚』春陽堂 1930 年 9 月.　【付記】:『同小説全集』（上述）には掲載が見られない.

□ *「**自動車横行に對する階級的實感**」『樗陰 DVD』.　随想 8 枚.　▲『中央公論』1924 年 5 月．小特集「自動車横行時代」ちゅうに掲載.　【付記】: 単行本未収録か.『同小説全集』（上述）にも見られない.

□ *「**死滅する村**」『樗陰 DVD』.　小説 35 枚.　▲『中央公論』1923 年 2 月.　△『彼等甦れば』解放社 1927 年 10 月.　▽『現代日本文學大系㉜』筑摩書房 1973 年 1 月.　【付記】:『同小説全集』（上述）には見られない.

□ *「**微笑する未来**」『樗陰 DVD』.　小説 106 枚.　▲『中央公論』1924 年 6 月 15 日(夏季増刊「不安恐怖時代」號).　▽『小川未明選集④』其刊行会 1926 年 3 月.　【付記】『同小説全集』（上述）には見られない.

□ *「**眞夜中カーヴを軋る電車の音**」『樗陰 DVD』.　随想 10 枚.　▲『中央公論』1923 年 3 月．小特集「徹夜するもののみが知る眞夜中と黎明の感じ」ちゅうに掲載.　△『藝術の暗示と恐怖』春秋社 1924 年 7 月.　▽『同小説全集⑥』講談社 1979 年 10 月.

□ *「**村の教師**」『樗陰 DVD』.　小説 43 枚.　▲『中央公論』1923 年 5 月.　△『同選集④』（上述）.　【付記】『同小説全集』（上述）には見られない.

□ *「**模擬的文明の破壊**」『改造 DVD』——No. 29.　　随想 5 枚.　▲『改造』1923 年 10 月（大震災號）. 小特集「大震災に遭遇して」ちゅうに掲載.　【付記】: 単行本未収録か. 『同小説全集』（上述）にも見られない.

尾崎 紅葉（1867-1903）: 本名德太郎. 号縁山, 戯作堂, 半可通人, 十千萬堂.

□「**不言不語**（いわずかたらず）」『善本寫眞集⑦: 近代作家原稿集』 天理圖書館（編輯）/ 奈良: 天理大學出版部（發行） 1956 年 7 月 15 日.　⑦の「四」が, 米国 Bertha M. Clay による大衆小説 *Between Two Sins*（1882）を翻案した「不言不語」の連載第 2 回の原稿 3 枚を縮小して単色で掲載.　▲『讀賣新聞』1895 年 1 ～ 3 月（全 56 回）.　▽『紅葉全集⑤』岩波書店 1994 年 2 月.　【参考】: 堀啓子『和装のヴィクトリア文学: 尾崎紅葉の『不言不語』とその原作』東海大学出版会 2012 年 7 月.　【付記】:『事典』(p. 169) に紅葉の作品で「原稿で確認できるものはさほど多くない」とあったので立項した. なお, この『善本寫眞集』は複刻（臨川書店, 1988）もされている.

□「**此ぬし**」 NDL-DC が半 6 枚分をカラー（13 コマ）で公開.　「（八）**玉章**（たまづさ）」の終わり ⅓ を泉鏡花が識語と共に表装した巻子本.　△『新作十二番: 此ぬし』春陽堂 1890 年 9 月.　▽『紅葉全集』博文館 1904 年 1 月.　▽『同全集②』同 1994 年 7 月.　▽『明治の文学⑥: 尾崎紅葉』筑摩書房 2001 年 2 月.

□「**風雅娘**」 NDL-DC が 15 枚をカラー（20 コマ）で公開.　△『新著百種③: 風雅娘』吉岡書籍店 1889 年 6 月.　▽『同全集①』同 1994 年 3 月.

大佛 次郎（1897-1973）:　本名野尻清彦. 野尻抱影の弟.

□ *「**「赤穂浪士」のこと**」『改造 DVD』——No. 35.　執筆の契機と連載後の評判に触れた 7 枚であるが,『「改造」直筆原稿の研究』（雄松堂出版, 2007）は掲載先不明としている.　【付記】:「赤穂浪士」は『東京日日新聞』に 1927 年 5 月から翌年 11 月まで連載された.

□ *「**ドレフュス事件**」『改造 DVD』——No. 34.　　95 枚. ▲『改造』1930 年 4 ～ 10 月に連載されたうちの 4, 5 月掲載分. △改筆して,『新世界叢書[2]: ドレフュス事件』天人社 1930 年 10 月. ▽『新潮日本文学[25]』1972 年 11 月. 【参考】:『改造 原稿図録[1]』——⑧が初回冒頭の 3 枚を掲載.

葛西 善藏（1887-1928）:

□『資料集[12]：葛西善藏 原稿「**姉を訪ねて**」』 青森県近代文学館　2021 年 3 月 30 日.　　1 ～ 25 枚目を単色写真で掲載(pp. 1-25)すると共に, 前付に冒頭 2 枚を多色刷りで収録. 竹浪直人「解説」(pp. 27-38). ▲『人間』人間出版部 1921 年 7 月. △『葛西善藏全集[2]』改造社 1928 年 8 月. ▽『葛西善藏全集[2]』津軽書房 1975 年 3 月. ▽『贋物 父の葬式』講談社文芸文庫 2012 年 9 月. 【付記】: 同館は 2018 年の[11]から『資料集』を冊子体に印刷することを止めてネットでの PDF 配信に切り替えた.

□ *「**父の葬式**」『樗陰 DVD』.　　小説 16 枚. ▲『中央公論』1923 年 2 月. △『同全集[2]』改造社 1928 年 8 月. ▽『同全集[2]』津軽書房 1975 年 3 月. ▽『贋物 父の葬式』（上述）.

□ *「**血を吐く**」『樗陰 DVD』.　　小説 11 枚. ▲『中央公論』1925 年 1 月. △『同全集[3]』改造社 1928 年 11 月. ▽『同全集[2]』津軽書房 1975 年 3 月.

□ *「**東北の原野を夜汽車で過ぎる時など**」『樗陰 DVD』.　随筆 2 枚. ▲『中央公論』1923 年 3 月. 小特集「徹夜するもののみが知る眞夜中と黎明の感じ」ちゅうに掲載.　△『同全集[4]』改造社 1929 年 6 月.　▽『同全集[3]』津軽書房 1975 年 6 月.

梶井 基次郎（1901-32）:

□ 河野龍也(編)　『実践女子大学蔵 梶井基次郎 **檸檬** を含む草稿群——「瀬山の話」』　武蔵野書院　2019 年 11 月 13 日　税別 1 万円　《A5 判上製 /348 頁》.

短篇集『檸檬』(1931) を出版した同書院の創業百周年記念に,「檸檬」の「母胎となった草稿群の本文がどのように生成したか，その全過程を解明しようと試み」(序文)ての刊行．草稿 79 枚(そのうち「檸檬」に用いられたのは 14 ～ 28 枚目)が 70％に縮小されカラー撮影されている．▲「檸檬」の部分のみ，『青空』同人誌 1925 年 1 月．創刊号．▲草稿全体を淀野隆三が「瀬山の話」と仮題して，『文藝』改造社 1933 年 12 月．△『檸檬』武蔵野書院 1931 年 6 月．▽『梶井基次郎全集[1]』筑摩書房 1966 年 4 月．【別版】：河野(編)『梶井基次郎「檸檬」のルーツ：実践女子大学蔵「瀬山の話」』同書院 2019 年 11 月 20 日 税別 1,800 円．「翻刻の手法を変え，解説も改め」た〝モノクロ影印普及版〟として．【参考】:『事典』pp. 178-180．河野が執筆．【付記】:『100 選』――No. 77 は「檸檬」の発端を想像させる[半]2 枚の詩稿「**秘めやかな愉しみ**」を複製．

川端 康成 (1899-1972)：

□『「**四季**」より』 求龍堂 1988 年 2 月 22 日 350 部 88 万円． 「解題」に拠ると，川端が〝掌(たなごころ)〟の小説〟と呼んで 40 年に亘って発表してきた約 140 篇のうちで，本書は最晩年に属する 10 篇の原稿を全葉とも原寸原色で複製する．別冊の「掌の小説十二篇 解題」(85 頁) は，郡司勝義による解題，岡本一平の書簡(写真版)，諸家による推薦文を収める．更に，東山魁夷が掲載先に提供した装画 8 葉(版画)も付録にされた．▲『朝日新聞』の「四季」讃が初出で，「**秋の雨**」(1962 年 11 月 10 日) 7 枚．「**隣人**」(同 24 日) 7 枚．「**木の上**」(12 月 1 日) 6 枚．「**乗馬服**」(同 8 日) 7 枚．「**かささぎ**」(1963 年 7 月 21 日) 6 枚．「**不死**」(8 月 4 日) 8 枚．「**月下美人**」(同 11 日) 7 枚．「**地**」(同 18 日) 8 枚．「**白馬**」(同 25 日) 8 枚．「**めづらしい人**」(1964 年 11 月 15 日) 8 枚． ▽『掌の小説』新潮文庫 1989 年 6 月(改版)．【参考】:『井上靖全集[24]』新潮社 1997 年 7 月．本書の内容見本に井上が寄せた推薦文を再録．

□『日本名作自選文学館』　ほるぷ出版　1972 年 12 月 1 日　5 万 5,000 円(セット価).　❶「**眠れる美女**」⇨ 川端がペンで転写した 172 葉を原寸原色で複製するが，転写稿が行方不明の第 6，16，17 回は活字組みの 4 枚で補填されている．長谷川泉執筆の解説冊子(13 頁)を添えて，川端が自殺した 4 ヶ月後にこの複製が発売された．▲『新潮』1960 年 1 月～翌年 11 月．全 17 回.　❷「**雪國抄**（一），（二）」⇨ 牧羊社版『定本雪國』（1971 年 8 月）から駒子に焦点を絞って毛筆で転写して，末尾に「以上二冊 昭和四十七年一月二月書く 康也」と書き遺した 56 枚を原寸単色で和綴じ本 2 冊に複製する．▲『サンデー毎日』1972 年 8 月 13 日号．▽『非情 寒風 雪国抄』講談社文芸文庫 2015 年．【参考】：元々の「雪國」は『文藝春秋』に 1935 年 1 月から掲載が始まり，諸誌に 1937 年 5 月まで連作され，加筆を経て同年 6 月に創元社から単行本化されていた．【付記】：『100 選』——No. 72 は単行本化された 1937 年に追加された 7 枚のうち 1 枚目.

□「**山の音**」『群像日本の作家⑬：川端康成』　小学館　1991 年 7 月 10 日　税込 1,800 円　pp. 74-85.　冒頭 6 枚.　▲『改造文藝』改造社 1949 年 9 月～『オール読物』文藝春秋新社 1954 年 4 月．短篇 17 篇がタイトルを変えながら分載された．△筑摩書房 1954 年 4 月．完結版．▽『川端康成全集⑫』新潮社 1980 年 2 月．【付記】：『100 選』——No. 73 は冒頭の 1 枚のみ.

□ 平山三男(編著)『遺稿「**雪國抄**」：影印本文と注釈・論考』　至文堂　1993 年 9 月 20 日　2,500 円　pp. 15-132.　「雪國抄」（上述）の原稿を約 40％に縮小し，見開きにした B6 判本の上段に単色で転載し，翻刻を添える．下段には各葉へのコメントや校異が並ぶ.

【付記】：今東光が『新選現代日本文學全集③：付録①』（筑摩書房，1958 年 10 月）の「川端康成君のこと」で，「僕は嫌いな書体だったが，最近の彼の筆蹟を見ると，まことに暢達(ちょうたつ)無礙(むげ)，まったく川端康成流の本領を発揮し，申し分のない書だと言いたいのだ．もうこの人あたりが毛筆で字の書ける最後ではあ

るまいか.」と論評している.

河東 碧梧桐（1873-1937）：　　本名秉五郎(へいごろう).

□ *「**書簡より見たる子規：特に漱石宛のものより**」『改造 DVD』——No. 45. 評論㊮50 枚. ▲『改造』1934 年 9 月. 【付記】：初載刊本および転載先不明. 【参考】：『改造 原稿図録①』——⑱に子規の書簡 800 通を通読した理由に触れた冒頭の㊮5 枚. 【付記】：『漱石・子規：往復書簡集』（岩波文庫, 2002）は「漱石と子規の間で交わされた今日に伝わる書簡のすべて」(凡例) を集めるが, 現存する漱石宛書簡は 53 通のようである.

菊池 寛（1888-1948）：　　本名寛(ひろし). 筆名比呂士, 草田杜太郎.

□ *「**岩見重太郎（An Allegory）**」『樗陰 DVD』. 一幕物 32 枚. ▲『中央公論』1922 年 4 月（春季大附録號）. △『現代脚本叢書：茅の屋根』新潮社 1922 年 10 月. ▽『菊池寛全集①』高松市：菊池寛記念館 1993 年 11 月. ▽『父帰る・藤十郎の恋：菊池寛戯曲集』岩波文庫 2016 年 10 月.

□ *「**神の如く弱し**」『樗陰 DVD』. 小説 37 枚. ▲『中央公論』1920 年 1 月. △『極樂』春陽堂 1920 年 7 月. ▽『同全集②』同 1993 年 12 月.

□ *「**競馬談**」『改造 DVD』——No. 47. 38 枚の解説文. ▲『改造』1932 年 1 月. △『菊池寛全集 補巻 2』国分寺：武蔵野書房 2002 年 9 月 pp. 396-408. 【参考】：『改造 原稿図録①』——①に冒頭の 2 枚.

□ *「**玄宗と彼の愛人**」『樗陰 DVD』. 一幕物 33 枚. ▲「**玄宗の心持**」として,『中央公論』1922 年 9 月（秋季大附録號）. △『現代脚本叢書：茅の屋根』（上述）. ▽『同全集①』（上述）. ▽『父帰る・藤十郎の恋：菊池寛戯曲集』岩波文庫 2016 年 10 月.

□ *「**此頃の感想**」『改造 DVD』——No. 48. 6 枚. ▲『改造』1930 年 7 月. △『同全集 補巻 2』（上述）pp. 363-364.

□ *「**此の頃の感想**」『改造 DVD』——No. 49.　6 枚.　▲『改造』1931 年 10 月　△『同全集 補巻 2』（上述）pp. 393-394.　【参考】:『改造 原稿図録 1』——①に「**映画俳優の人氣**」と「**新聞スポーツ**」の各 1 枚目.

□ *「**時勢は移る**」『樗陰 DVD』.　34 枚. 序幕のみで発表されたが, 第 2 ～ 3 幕は執筆されなかった.　▲『中央公論』1922 年 1 月.　△『現代脚本叢書：茅の屋根』（上述）.　▽『同全集 1』（上述）.　▽『父帰る・藤十郎の恋：菊池寛戯曲集』岩波文庫 2016 年 10 月.

□ *「**震災餘譚**」『樗陰 DVD』.　一幕物 30 枚.　▲『中央公論』1924 年 1 月.　△『時の氏神』新潮社 1924 年 9 月.　▽『同全集 1』（上述）.

□ *「**身邊雑事**」『樗陰 DVD』.　随想 12 枚.　▲『中央公論』1923 年 6 月 15 日（夏季増刊「知識階級と無産階級」號）.　△『感想小品叢書 1:わが文藝陣』新潮社 1923 年 12 月.　▽『同全集 補巻 2』（上述）pp. 163-167.

□ *「**タクシの乗客として**」『樗陰 DVD』.　随想 5 枚.　▲「**タクシの常客として**」として,『中央公論』1924 年 5 月. 小特集「自動車横行時代」ちゅうに掲載.　△『文藝當座帳』改造社 1926 年 6 月.　▽『同全集 補巻 2』（上述）pp. 206-208.

□ *「**妻**」『改造 DVD』——No. 46.　一幕物の喜劇 20 枚.　▲『改造』1925 年 1 月.　△『菊池寛戯曲全集 3』春陽堂 1925 年 5 月.　▽『同全集 1』同 1993 年 11 月.

□ *「**流行兒**（はやりっこ）」『樗陰 DVD』.　〝啓吉物〟に分類される 16 枚半の短篇.　▲『中央公論』1921 年 6 月.　△『菊池寛傑作集』新潮社 1921 年 7 月.　▽『同全集 3』同 1994 年 1 月.　【参考】:『事典』pp. 185-189.

□ *「**微苦笑**」『樗陰 DVD』.　小説 23 枚.　▲『中央公論』1924 年 5 月.　△『戀愛病患者』改造社 1924 年 9 月.　▽『同全集 3』（上述）.

□ *「**蘭學事始**」『樗陰 DVD』.　小説 43 枚.　▲『中央公論』1921 年 1 月.　△『道理：小説集』春陽堂 1921 年 7 月.　▽『同全集 2』（上述）.

□ *「**老姥茶話**」『樗陰 DVD』.　随想 11 枚.　▲「**老嫗茶話**」として，『中央公論』1923 年 5 月．小特集「當世百物語」ちゅうに掲載.　△『文藝當座帳』（上述）.　▽『同全集㉑』同 1995 年 7 月 pp. 721-724.　▽『幻想文学㊼』山梨：アトリエ OCTA 1996 年 6 月.

北原 白秋（1885-1942）：　本名隆吉.

□『白秋全集⑬：詩歌ノート①』 岩波書店　1985 年 10 月 9 日　3,500 円.

❶「**邪宗門**ノート 1, 2［仮称］」⇨ pp. 1-155.　現存が確認されている 1908 ～ 14 年頃のノート 29 冊から，第一詩集『邪宗門』(1909)と密接に関連する初期の 2 冊(140 頁，96 頁)を，周囲の余白をやや狭めた単色写真版．中島国彦による解説(pp. 409-440)付き.　△『邪宗門』易風社 1909 年 3 月.

❷「**思ひ出**ノート 1 ～ 4［仮称］」⇨ pp. 157-405.　第二詩集『思ひ出』(1911)と関連性の密な初期の 4 冊(96 頁，140 頁，136 頁，132 頁)を周囲の余白をやや狭めた単色写真版．中島による解説(pp. 440-457)付き.　△『思ひ出』東雲堂書店 1911 年 6 月.　【参考】:「一切省略をせず，何らかの記述のある部分をすべて収録」(解説)した⑬には翻刻が無いが，多くのページで完成作品との繋がりが注記されている．【付記】：飯島耕一は『同全集⑬：月報⑪』で，「あの草稿の白秋の文字，その抹消を含む詩人の苦闘ぶりを眺めたので，いっそう深いところで詩を読み，白秋の声と音を聞き得たように思った」と，こうしたノートの有用性を例示する.

□『白秋全集⑭：詩歌ノート②』 岩波書店　1986 年 3 月 5 日　3,600 円.

❶「**黒い皮**ノート 1, 2［仮称］」⇨『白秋小品』(阿蘭陀書房，1916 年 10 月)のための草稿，歌稿，日記，断片がメモされ，同書の「自序」が「黒い(皮)ノート」と呼んだ 2 冊（140[実質 31]頁，230 頁）を縮小した単色写真で抄録(pp. 1-55)するが翻刻は無い．紅野敏郎の解説(pp. 436-441)は完成作品との繋がりを注記する.　❷「**桐の花**ノート 1 ～ 9［仮称］」⇨ 第一歌集『桐

の花』（東雲堂書店，1913 年 1 月）に関わる 9 冊（70 頁，90 頁，70 頁，96 頁，140 頁，84 頁，156 頁，90 頁，70 頁）について，pp. 57-225 において縮小単色写真で，「出来る限り省略をせず…その全貌の再現に努めた」(p. iii) らしいが翻刻は無い．紅野による解説 (pp. 441-459) は『桐の花』との繋がりをしばしば注記する．　❸「三崎ノート 1 ～ 11［仮称］」⇨ 三崎時代から麻布時代にかけての 11 冊（108 頁，60 頁，140 頁，116 頁，140 頁，126 頁，120 頁，104 頁，114 頁，180 頁，96 頁）が，第三詩集『東京景物詩』（東雲堂書店，1913 年 7 月）およびそれ以降に収録される詩稿を記録しており，「その資料的価値，創作のプロセスを考慮し，選択して」(p. iii)，読みやすい縮尺にして単色写真版に複製 (pp. 227-433) される．なお，伝存する 12 冊目（128 頁）は水を被り判読困難なために除外された (pp. 460, 487-488)．紅野の解説 (pp. 459-488) にはやはり翻刻が無いが，完成作品との繋がりは詳細に注記されている．

木下 杢太郎（1885-1945）：　本名太田正雄．号竹下数太郎，きしのあかしや．

□『**すかんぽ**：木下杢太郎絶筆原稿』　伊東市：杢太郎記念館　1969 年 10 月 15 日　特装本 1,000 円 / 普及本 500 円．　1945 年 6 月に書き遺された回顧的随筆 16 丁をやや縮小し多色刷りで複製．野田宇太郎の「すかんぽ原稿について」(4 頁) が挿み込まれている．　▲『文藝』河出書房 1945 年 7-8 月．当時唯一の文學雑誌で，野田が編集していた．　△『葱南雑稿』東京出版 1946 年 9 月．太田正雄名義．　▽『木下杢太郎全集18』岩波書店 1983 年 2 月．　▽『木下杢太郎随筆集』講談社文芸文庫 2016 年 3 月．【再刊】：伊東市：杢太郎会 1985 年 12 月 普及本 1,000 円．解説無し．【付記】：後出の『百花譜』(1979) では p. 777 (下巻) に「すかんぽ」が見られる．

□『**百花譜**』　全 2 冊　岩波書店　1979 年 3 月 19 日　5 万 8,000 円．　東京帝國大學の皮膚科教授たる太田正雄が，周囲に見掛けた植物 733 種を，1943

年 3 月 10 日～ 1945 年 7 月 27 日に，20×16.7㎝の洋罫紙あるいは無罫紙にほぼ実物大に写生して識語を添えた 872 枚の図譜．前川文夫の同定作業を経て全葉が初めて原寸原色で複製された．　△『木下杢太郎日記[5]』岩波書店 1980 年 7 月．識語のみ．【付記】:『100 選』——No. 39 に「**そめいよしの**」と「**ひよくひば**」の複製.

□ 澤柳大五郎(編)『**百花譜**百選』 岩波書店　1983 年 5 月 30 日　2 万円. 『百花譜』の図譜 872 枚から選ばれた 100 枚を原寸原色で複製し，解説(6 頁)を添える．【再版】: 1990 年 2 月および 2000 年 9 月.

□ 前川誠郎(編)『新**百花譜**百選』 岩波書店　2001 年 3 月 8 日　税別 3 万円. 編者選の 100 枚集で，やはり原寸原色で複製して解説(6 頁)が添えられている.

□ 前川誠郎 (編)『新編**百花譜**百選』 岩波文庫　2007 年 1 月　税別 1,500 円. 『百花譜』(1979) から 100 点を選び原色のまま 50％に縮小し字釈を付す. 但し，2001 年版『新百花譜百選』と比べると半数が差し換えられている.

【参考】: 富士川英郎(編)『木下杢太郎画集』全 4 巻 用美社 1985～87 年 各 2 万円．杢太郎の絵画面での業績は植物図譜に留まらず，〖仏像篇〗〖紀行篇〗〖昆虫篇〗〖装幀篇〗が刊行されている.

窪田 空穂 (1877-1967)：　　本名通治．筆名小松原春子，にげみず.

□ *「**アネモネの花**」『改造 DVD』——No. 51.　　郷里の松本を懐かしむ[半]46 枚の随筆．▲『改造』1933 年 5 月．　△『歌話と隨筆』一誠社 1933 年 11 月　▽『窪田空穂全集[5]』角川書店 1966 年 5 月．【参考】:『改造 原稿図録[2]』——⑪が冒頭の 6 枚を掲載.

□ *「**安房にて**」『改造 DVD』——No. 56.　　[半] 3 枚に 7 首．▲『改造』1932 年 10 月．　△『さゞれ水』改造社 1934 年 6 月．第 12 歌集．　▽『同全集[2]』同 1965 年 7 月.

□ *「**旧友と語る**」『改造 DVD』——No. 61.　　半 3 枚に 7 首.　▲『改造』1936 年 1 月.　△『郷愁』書物展望社 1937 年 5 月. 第 13 歌集.　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**近詠**」『改造 DVD』——No. 63.　　半 3 枚に 12 首.　▲『改造』1928 年 1 月.　△『青朽葉』神谷書店 1929 年 8 月. 第 11 歌集.　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**近詠**」『改造 DVD』——No. 60.　　半 4 枚 10 首.　▲『改造』1929 年 1 月.　△『青朽葉』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**近詠**」『改造 DVD』——No. 54.　　半 5 枚に 14 首.　▲『改造』1930 年 6 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**近詠**」『改造 DVD』——No. 53.　　半 5 枚に 12 首.　▲『改造』1931 年 8 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**故郷**」『改造 DVD』——No. 62.　　半 3 枚に 7 首.　▲『改造』1936 年 8 月.　△『郷愁』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**小鳥の卵と雛**」『改造 DVD』——No. 59.　　半 3 枚に 7 首.　▲『改造』1934 年 8 月.　△『郷愁』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**歳末に**」『改造 DVD』——No. 67.　　半 2 枚に長歌・反歌各 1 首.　▲『短歌研究』改造社 1933 年 2 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**サゞレ水**」『改造 DVD』——No. 65.　　半 5 枚に片仮名で 13 首.　▲『短歌研究』同 1933 年 5 月. 平仮名遣い.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集 2』(上述).

□ *「**新古今和歌集**」『改造 DVD』——No. 50.　　自著『新古今和歌集評釋』(東京堂, 1932 年) を踏まえた研究論文半 62 枚.　△『日本文學講座 6』改造社 1934 年 5 月.　▽「**新古今和歌集の研究**」として,『同全集 10』同 1966 年 3 月.

□ *「**深大寺**」『改造 DVD』——No. 58.　　境内における晩秋の佇まいを歌った半 3 枚 7 首.　▲『改造』1935 年 1 月.　△『郷愁』(上述).　▽『同全集 2』(上述).　【参考】:『改造 原稿図録 3』——⑯に 1, 2 枚目.

□ *「**箱根山**」『改造 DVD』——No. 52.　半16 枚に 50 首.　▲『短歌研究』同 1933 年 11 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集2』(上述).

□ *「**古き打身**」『改造 DVD』——No. 57.　半3 枚に回想的な 7 首.　▲『短歌研究』同 1934 年 5 月.　△『郷愁』(上述).　▽『同全集2』(上述).

□ *「**保田の海**」『改造 DVD』——No. 66.　半6 枚に 13 首.　▲『短歌研究』同 1933 年 2 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集2』(上述).

□ *「**「立秋」ヲ読ム**」『改造 DVD』——No. 64.　川田順の歌集『立秋』(改造社, 1933 年 2 月) に対する辛口の評論の冒頭 ⅓ で, 半片仮名遣いの 5 枚＋平仮名の 5 枚.　▲『短歌研究』同 1933 年 5 月. 平仮名.　△『歌話と隨筆』一誠社 1933 年 11 月.　▽『同全集11』同 1965 年 3 月.

□ *「**聯盟の新聞記事を読みて**」『改造 DVD』——No. 55.　半3 枚に連作 8 首.　▲『改造』1933 年 4 月.　△『さゞれ水』(上述).　▽『同全集2』(上述).

久保田 万太郎 (1889-1963)：　号暮雨, 傘雨, 水中亭.

□ 三田文学ライブラリー(編)『**青みどろ**』慶応義塾　1983 年 5 月 6 日　非売品.　1936 ～ 38 年の詠から第 5 句集を企図して 182 句を自選した稿本 46 丁が没後 20 年に初めて原寸原色で複製された. 巻末に戸板康二「『青みどろ』について」(pp. 1-3) と, 安住敦「解説」(pp. 5-16) を併載.　△『久保田万太郎句集』三田文學出版部 1942 年 5 月. IV に 132 句のみ.　▽『久保田万太郎全集14』中央公論社 1967 年 6 月. 作品の一部を「季題別全俳句集」に分散収録.

□ *「**心ごゝろ**」『樗陰 DVD』.　戯曲 54 枚.　▲『中央公論』1922 年 1 月.「その一」&「その二」のみ.　△『心ごころ』新潮社 1926 年 3 月.「その三」も併載.　▽『同全集5』同 1967 年 9 月.

□ *「**四月盡**」『樗陰 DVD』.　戯曲 54 枚.　▲『中央公論』1921 年 9 月(四百號紀念號).　△『わかもの』玄文社 1923 年 9 月.　▽『同全集5』(上述).

□ *「**短夜**」『樗陰 DVD』.　一幕物 49 枚.　▲『中央公論』1925 年 1 月.　△『心ごころ』（上述）.　▽『同全集5』（上述）.

□ *「**冬と春と**」『樗陰 DVD』.　7 枚で〝句四十，短冊一〟を収める.　▲『中央公論』1922 年 3 月．小特集「現代藝術家餘技集」ちゅうに掲載．久保田は小説・戯曲の他，余技としての俳句も多く残した.　△『道芝』俳書堂 1927 年 5 月．一部のみで，一括収録は単行本にも中央公論社版『全集』(1967〜68)にもなされなかったようである.

幸田 露伴（1867-1947）：　本名成行（しげゆき）．号叫雲老人，蝸牛庵ほか.

□ *「**蒲生氏郷**」『改造 DVD』——No. 73.　600 字詰め用紙の左半分のみを用いて 320 枚.　▲『改造』1925 年 9 月.　△『蒲生氏郷・平将門』改造社 1925 年 12 月.　▽『露伴全集16』岩波書店 1978 年 12 月.

小林 多喜二（1903-33）：

□ *「**老いた體操教師**」『DVD 版 小林多喜二 草稿ノート・直筆原稿』 雄松堂 2011 年 2 月　税別 10 万円(セット価).[16]　17 歳の多喜二が『小説倶樂部』に投稿した 20 枚少々が選外佳作として掲載されたが，DVD 版は日本共産党が所蔵する 5 枚の原稿を収録する.　▲『小説倶樂部』民衆文藝社 1921 年 10 月.　△『老いた体操教師・瀧子其他：小林多喜二初期作品集』講談社文芸文庫 2007 年 10 月.

□ *「**蟹工船**」『DVD 版多喜二』.　プロレタリア文学の中篇小説．日本近代文学館が所蔵する 91 枚で，『戦旗』5 月號に発表された第 4 章までの原稿.　▲『戦旗』戦旗社 1929 年5，6 月(発禁).　△『蟹工船』戦旗社 1929 年9 月(発

[16] 以下『DVD 版多喜二』と略記する．このコレクションは，12 作品の自筆原稿 800 枚に加えて多くの草稿やノート類などを DVD 1 枚に集めるが，筆者(藤井)は未見のため，自筆原稿についての収録情報を主に版元の広告から拾った.

禁). ▽『定本小林多喜二全集④』新日本出版社 1968 年 2 月. 原稿との照合で伏せ字が開かれた. ▽『小林多喜二全集②』新日本出版社 1982 年 6 月. 【付記】:『100 選』——No. 82 が冒頭の 1 枚.

□ *「**壁小説と「短い」短篇小説**」『DVD 版多喜二』. 日本近代文学館所蔵の評論 7 枚. △『新興藝術研究②:主として藝術の形式に關する特輯』刀江書院 1931 年 6 月. ▽『同全集⑤』同 1982 年 11 月.

□ *「**工場細胞**」『DVD 版多喜二』および『改造 DVD』——No. 74. 日本共産党の組織強化活動に取材した中編小説. 表紙(半 1 枚)と 187 枚. ▲『改造』1930 年 4 ～ 6 月. △『工場細胞』戰旗社 1930 年 7 月. ▽『同全集③』同 1982 年 9 月. 【参考】:『改造原稿図録①』——⑰に表紙および冒頭の 4 枚.

□ *「**地區の人々**」『DVD 版多喜二』. 日本近代文学館所蔵の 106 枚. 小樽の労働者による再決起を描こうとした絶筆作品. ▲『改造』1933 年 3 月. △『地區の人々』改造社 1933 年 5 月. ▽『同全集④』同 1982 年 10 月.

□ *「**轉形期の人々**」『DVD 版多喜二』. 日本近代文学館所蔵の 49 枚. 1925 ～ 28 年における解放運動の現状を 3,000 枚で描こうと構想された長篇小説の序論的部分. ▲『ナップ』全日本無産者藝術聯盟 1931 年 10, 11 月 →『プロレタリア文學』日本プロレタリア作家同盟 1932 年 1 ～ 4 月. 第 3 回掲載号以外は全号発禁. △『轉形期の人々』改造社 1932 年 9 月 ▽『同全集④』(上述).

□ *「**黨生活者**」『DVD 版多喜二』. 共産主義的人間像の典型を描こうと試みた未完の小説. 初出誌に 758 箇所の伏せ字が指定される以前の校正刷り 87 頁分で, 日本近代文学館が所蔵. ▲『中央公論』1933 年 4, 5 月. 作者の死後に「**轉換時代**」の仮題で掲載された. △『黨生活者』大阪:民衆書房 1947 年 1 月. 秘匿の紙型から伏せ字が開かれた. ▽『同全集④』(上述).

□ *「**不在地主**」『DVD 版多喜二』. 石狩川流域の不在地主と小作農の争議に取材した中編小説から, 日本共産党が所蔵する 116 枚(30 ～ 145 枚目).

▲第 12 ～ 16 章を除外して，『中央公論』1929 年 11 月．　▲除外された 50 枚を「**戦い**」と改題して，『戦旗』戦旗社 1929 年 12 月．　△『不在地主』日本評論社 1930 年 1 月．　▽『同全集④』（上述）．【付記】：別系統らしい「**不在地主**」からの冒頭 3 枚も『DVD 版多喜二』に収録の由．

□ *「**故里の顔**」『DVD 版多喜二』．　北海道立文学館所蔵の 6 枚．　▲『女人藝術』女人藝術社 1932 年 1 月．△『小林多喜二全集⑧』新日本出版社 1951 年 6 月．　▽『同全集⑤』（上述）．

□ *「**「文學の黨派性」確立のために**」『DVD 版多喜二』．　日本共産党所蔵の評論 42 枚．　▲『新潮』1932 年 4 月．　△「徳永直の見解について」と副題して，『小林多喜二論文集：日和見主義に對する闘争』日本プロレタリア文化聯盟出版部 1933 年 4 月．発禁．　▽『同全集⑤』（上述）．

□「**文藝時評**」『DVD 版多喜二』．　何度か執筆された「文藝時評」のうちの一篇で，日本近代文学館が所蔵する 33 枚．　▲『中央公論』1932 年 6 月．△『小林多喜二全集⑨』日本評論社 1949 年．　▽『定本小林多喜二全集⑪』新日本出版社 1969 年 3 月．後年に発見された原稿から活字に組んだ新版．

小林 秀雄（1902-83）：

□「**花見**」『群像日本の作家⑭：小林秀雄』小学館　1991 年 10 月 10 日　税込 1,800 円　pp. 80-95.　全 8 枚．　▲『新潮』1964 年 7 月．　△『小林秀雄全集⑨：私の人生観』新潮社 1967 年 6 月．　▽『人生について』中公文庫 2019 年 8 月．【付記】：⑭の口絵に，手稿「**おやのおん**」，「**罪と罰**」，「**モオツァルト**」，「**ゴッホの手紙**」から各冒頭の㊥ 1 ～ 2 枚を縮小し多色刷りで掲載する．

［以下次号］